

1 目指すべき姿（10年程度先）と施策の方向性

計画の基本理念に基づき将来ビジョンを実現するために、手の届く未来である「10年程度先」（2030年頃）を見据えた3つの「目指すべき方向性」の実現を目指します。

3つの目指すべき方向性

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

- 1 「地方創生先導・とくしまづくり」
- 2 「笑顔で子育て・とくしまづくり」
- 3 「安全強靱・とくしまづくり」
- 4 「健康長寿・とくしまづくり」
- 5 「くらし安心・とくしまづくり」
- 6 「脱炭素実現・とくしまづくり」
- 7 「循環共生・とくしまづくり」

II 「多様性実感！共生とくしま」の実現

- 1 「未来人材育成・とくしまづくり」
- 2 「誰もが活躍・とくしまづくり」
- 3 「広がるダイバーシティ・とくしまづくり」
- 4 「革新実装・とくしまづくり」
- 5 「ブランド進化・とくしまづくり」
- 6 「経済好循環・とくしまづくり」
- 7 「いきいき働く・とくしまづくり」

III 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

- 1 「誘客万来・とくしまづくり」
- 2 「近未来創造・とくしまづくり」
- 3 「あわ文化創造・とくしまづくり」
- 4 「スポーツ王国・とくしまづくり」
- 5 「障がい者カルスポ・とくしまづくり」
- 6 「スポーツレガシー・とくしまづくり」
- 7 「文化レガシー・とくしまづくり」

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

「とくしま回帰」を加速する魅力ある地域づくり

- ◆ 本県が持つ多様な地域特性や魅力が発揮され、移住者の増加や若者世代の定住・Uターンの促進、さらには、徳島に想いを寄せて活動する「徳島ファン」の増加により、地域の担い手が確保され、暮らしやすい地域づくりが進んでいます。
- ◆ 照明・ディスプレイ分野でのLEDの普及拡大と、医療・農業等様々な分野での新用途開発が進展するとともに、次世代LEDをはじめとする新たな光源開発・光応用技術の普及が進むなど、県内経済に大きな波及効果をもたらし、本県の基幹産業として地域経済を牽引しています。
- ◆ 全国屈指の「光ブロードバンド環境」や、「類い希な地域資源」と「斬新な発想」により創出されたビジネスにより、地域は活気にあふれ、国内外からの移住希望者が増えるとともに、コミュニティ内の子供や若者たちが早い段階からビジネス感覚を養い、地域に定住してビジネスを継承しようとしています。
- ◆ AIやビッグデータなどの「第4次産業革命」関連企業や4K・8K^{*}の高精細な映像技術を活用した、放送、医療、教育等に関連したサテライトオフィス等の事業所開設や本社機能の移転が進み、新たな雇用の場が創出され、若者が夢を持てる地域づくりが進んでいます。
- ◆ 農山漁村では、伝統的な食材や郷土料理などの地域に根ざした食文化や伝統芸能、景観など魅力ある地域資源の情報発信がなされるとともに、体験や学習の場として活用され、都市と農山漁村との交流が図られています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 市町村それぞれの「地域特性や魅力」を活かした移住交流を支援し、県全体の受入態勢の底上げを図るとともに、若者から高齢者まで、各世代において多様化する「移住希望者」のニーズにきめ細やかに対応できるよう、「情報発信」から「移住実現」に至るまでの「切れ目ないサポート」を官民連携・オールとくしまで推進します。
- ◎ 都市部に暮らしながら地域課題の解決等に継続的に関わるきっかけを提供することにより、「徳島ファン」の創出・拡大を図ります。
- ◎ 産学官連携により、幅広い分野で可能性を持つ次世代LEDの研究や応用製品開発を積極的に推進するとともに、光関連産業の振興に取り組みます。
- ◎ 経営資源を活かした新たな事業活動を促進するため、「柔軟な組織づくり」のノウハウを総合的かつ身近に学べる研修プログラムを提供し、企業の人財育成を支援するとともに、県内中小企業の経営の安定化を図り、積極的な事業展開が可能となるよう資金繰りの円滑化を図ります。
- ◎ 全国屈指の光ブロードバンド環境や全国トップクラスの企業立地優遇制度など、本県の強みを最大限に活かし、AIやビッグデータなど情報通信関連企業の誘致を推進します。
- ◎ 農山漁村における将来ビジョンを明確にし、その実現に向けて地域住民、行政が各々の役割に応じて行動する仕組みを構築することにより、地域のすてきな未来を創造する取組みを推進します。また、農山漁村での生活や農林漁業体験ができる「とくしま農林漁家民宿」や体験型交流施設などによる、都市住民やインバウンドとの交流を積極的に推進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

次世代型の公共交通とまちづくり

- ◆ 人口減少・高齢化が進むなか、公共交通と連携し、快適で効率的な生活環境を重視した、持続可能な市街地の形成が図られています。
- ◆ 次世代地域公共交通ビジョンを羅針盤とし、県内の様々な地域において、交通資源が最適化され、既存の鉄道などと密接に連携したバス路線、世界初の本格営業運行となるDMVや自動運転など多様な移動手段の連携による交通ネットワークが構築されています。
- ◆ 誰もが利用しやすく、乗り継ぎしやすい環境が整備され、スムーズに移動できることで公共交通の利用者が増加し、利便性が向上していく好循環が生み出されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 住民の生活利便性の維持・向上に向け、地域の実情に応じて、快適で効率的な生活環境を重視した、持続可能な市街地の形成が図られるよう、都市計画区域マスタープランを見直すとともに、市町による立地適正化計画の策定を支援します。
- ◎ 地域の実情に応じた多様な交通機関の連携によるモーダル・ミックスを推進するため、地域の拠点駅・拠点施設を中心とした乗り継ぎネットワークの構築や、デマンドバス、スクールバスの活用など地域の実情に応じた運行形態の導入、さらには配車システムの活用などによる新たな公共交通システムの構築を支援します。
- ◎ 既存施設を活用した交通結節点の環境整備などにより、バスや鉄道の乗り継ぎ利便性を向上させるとともに、訪日外国人をはじめとする観光客を対象とした企画乗車券の販売や公共交通をみんなで支えていく意識の醸成に努めるなど、公共交通の利用促進を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

地域が主役の新しい社会

- ◆ 全国を先導する政策が実装された徳島からの政策提言が、国の新たな制度や施策に反映されることで、地方がリードする地域の実情に即した「日本創生」が進んでいます。
- ◆ 政府機関の関西移転等をきっかけに、政治や経済の核が関西にも形成され、関西広域連合が行政の核となって「国土の双眼構造」への転換が実現しているとともに、関西広域連合のスケールメリットや知名度を活かした施策が充実し、徳島県が広域連合に参加している意義を県民が実感しています。
- ◆ 人口減少により自治体において労働力が不足する中、新たな行政運営手法としてA Iやロボット等を活用したスマート自治体への転換が進むとともに、市町村が連携した圏域単位の行政や県・市町村連携による行政が展開されています。
- ◆ 公共私協力関係が構築され、それぞれが地域運営に参画するとともに、I o T、A I等の革新技术により生活交通の維持や医療の確保及び産業の創出など集落活性化に向けた様々なサービスや技術が導入され、住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりが展開されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 地方の創意工夫を盛り込んだ徳島ならではの「処方箋」が、「地方創生」から「日本創生」へとつながるよう、国に対して積極的な政策提言を実施します。
- ◎ 全国で唯一の県域を越えた意思決定機関である関西広域連合に徳島県が参加していることのメリットを、県民に実感してもらう「広域プロジェクト（取組）」を推進します。
- ◎ 政府機関等の地方移転の実現や、地方分権改革の突破口を開き、「国と地方の役割分担の見直し」、「国から地方への事務・権限移譲」など「平成の新しい国づくり」をリードするために、国への提言や要請を「全国知事会」や「四国知事会」、「関西広域連合」等から積極的に展開します。
- ◎ 県、市町村及び民間が連携して情報共有を行い、スマート自治体の実現に向けた革新技术の導入を進めるとともに、圏域単位や県・市町村連携による行政について課題抽出や対応策の検討を進め、国への政策提言を実施します。
- ◎ 人口減少による担い手不足や集落の維持など様々な地域課題の解決に向け、市町村や地域運営組織、さらにはN P O等民間と連携を図りながら、地域の実情に応じた「新たな公共私」の連携・協力関係を構築するとともに、I o T、A I等の革新技术を活用した「課題解決モデル」を創出し、地域の維持・活性化を推進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり④

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

地域活力みなぎる共助社会

- ◆ 様々な分野において、行政とNPO・地域住民等の多様な主体が連携・協働し、共に助け合い、支え合う「共助社会」が地域に定着しています。県民・企業等は、社会貢献への「志」を実現するため、活発な寄附により、本県の多様な社会貢献活動を支えるとともに、身近な社会資本の維持管理をはじめ、様々な活動に積極的に参加しています。
- ◆ NPO等の社会貢献活動団体は、財政面で自立した団体として継続的に事業を展開し、地域社会の課題解決に取り組んでいます。また、地域の人を雇用し、収益を上げ、その収益を社会貢献活動に充てる事業型NPOの取組みが活性化しています。
- ◆ 農山漁村では、企業、NPO等の多様な主体が美しいふるさとを守るため、地域住民と「協働」で農作業や保全活動等を行っており、相互の交流が進み、強い絆で結ばれるとともに、美しいふるさとが守られています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ これまで培われてきたボランティア活動を継承、発展させ、共助社会づくりを加速させるため、次代を担う若者のボランティア活動への参画を促進する仕組みを整えるなど、ボランティア人口の拡大に向けた機運醸成と裾野拡大に取り組めます。
- ◎ 「とくしま県民活動プラザ」において、クラウドファンディングをはじめ、公務員等が自らの専門知識や技術を活かして社会貢献するプロボノ活動等により、NPO法人等の自立を促進するとともに、「ゆめバンクとくしま」のPRなどを通して、本県の寄附文化の更なる醸成を図ります。
- ◎ 地域の課題解決に向けた即戦力となるNPO法人等を育成するため、ソーシャルビジネスの手法を用い、事業型NPOの活動の普及・拡大に向けた施策を展開し、地方創生の加速化を図ります。
- ◎ これまでの道路、河川などにおけるアドプトプログラム^{*}や、地域でのボランティア活動の取組みをさらに発展させ、社会資本の維持管理等に地域住民等の多様な主体が参加できる仕組みを整えます。
- ◎ 活力と魅力あふれる農山漁村を創出するため、社会貢献に積極的な都市部の組織や住民と、応援を求める農山漁村を結びつけ、多様な主体による協働活動を契機とした交流を促進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり⑤

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

◆ 不断の行財政改革と県民主役の県政

- ◆ 不断の行財政改革により、持続可能な組織体制及び強靱でしなやかな財政基盤が確立し、「県民目線」・「現場主義」に立った「政策創造」と、県政の基盤となる「健全財政」の両立が図られています。
- ◆ 県政に関する県民の知る権利が尊重され、情報公開の総合的な推進により、県民参加による公正で開かれた県政が実現しています。
- ◆ 県民をはじめ、国内外の方との双方向コミュニケーションが活発に行われ、即時性に富んだ魅力的な情報発信により、本県の注目度の向上や交流人口の拡大が図られています。
- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ2021関西などの国際大会のレガシーとして、幅広い視点を備えた職員が、「創造力・実行力・発信力」を発揮し、知恵と工夫を凝らした施策を積極的に展開しています。
- ◆ 役割を終えた社会インフラや空き家などが、「にぎわいづくり」の拠点等に活用され、交流人口の拡大や地域の活性化に大きく寄与しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 人口減少や大規模自然災害をはじめ、直面する行政課題に的確に対応することのできる組織体制を構築するため、行財政改革のさらなる推進を図ります。
- ◎ 持続可能な財政運営に向けて、「公債費」・「県債残高」の適正な管理とともに、必要な「財政調整基金」の規模確保を図ります。
- ◎ 質の高い行政サービスを提供するため、統計データなどの客観的な証拠に基づく政策立案（EBPM）を推進します。
- ◎ 時代に即した利便性の高い広報媒体や最先端技術を効果的に活用し、魅力的かつきめ細やかな情報発信を行うとともに、県民からの提言を積極的に県政に反映していきます。
- ◎ 世界を見据えた「広い視野を持つ人財」を戦略的に養成するため、研修の充実強化、国や海外の機関等への職員派遣など、新たな行政課題に対応できる「人財育成」を強かに推進します。
- ◎ 役割を終えた公共施設、旧道敷などのマイナス資本である「リタイアインフラ」について、新たな価値を創造することにより、地域の「にぎわいづくり」を進める有用コンテンツとして活用・展開します。
- ◎ 空き家を貴重な地域資源としてとらえ、「徳島ファン」の本県への来訪や移住交流の推進に向け有効な利活用を促進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

2 笑顔で子育て・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

みんなで子育て協働支援社会

- ◆ 誰もが子育ての喜びを実感できる社会の実現に向け、アクティブシニアをはじめ様々な主体が参加し、地域全体で子育てを支援する「子育て協働支援社会」の構築が着実に進行しています。
- ◆ 在宅で子育てをする家庭の心理的負担が軽減され、希望する誰もが幼児教育・保育サービスを受けることができるとともに、子どもたちは放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行っています。
- ◆ 結婚や出産の希望が叶い、ライフステージに応じた柔軟な働き方が可能となるなど、子育てと仕事の両立ができ、充実した生活を送ることのできる社会環境が整っています。
- ◆ 希望出生率が1.8を超え、移住・定住希望者に「徳島」が選ばれています。
- ◆ すべての子どもたちが社会から孤立することなく大切に生まれ、将来に夢や希望をもって健やかに成長できる社会づくりが進んでいます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 誰もが安心して子育てできるよう、職場や地域、子育て支援団体、行政など地域全体で協働して子育てを支援し、子どもを温かく見守る「子育て協働支援社会」の実現を目指します。
- ◎ すべての子どもに、適切な保育や必要な幼児教育を提供するとともに、放課後の安全・安心な子どもの生活の場と、多様な体験・活動を行う機会の確保を図ります。
- ◎ 妊産婦のメンタルヘルスクケアや乳幼児等の病気の早期発見・早期治療の充実、子育て家庭の経済的負担の軽減など、妊娠期から安心して、子どもを生み育てることのできる社会を実現します。
- ◎ 子育て支援サービスの更なる充実や利用しやすい環境づくりなど子育て支援に係る基盤を強化し、出産や育児における多様なニーズをトータルにサポートすることにより、子育ての不安感や負担感の解消を図ります。
- ◎ 県の結婚支援拠点「マリッサとくしま」において、結婚を希望する独身者に出逢いの場を提供し、サポーターによるきめ細やかな支援を行います。
- ◎ 出産や子育てなどのライフステージに応じた柔軟な働き方や、男性の育児参加ができるような職場環境の整備に取り組みます。
- ◎ 次代を担う子どもたちが、社会から決して孤立することないよう、地域が一体となり子どもたちを育む「子どもの居場所づくり」を推進します。
- ◎ 関係機関等が連携して児童の支援・保護を行う「市町村要保護児童対策地域協議会」の活動を支援するとともに、児童相談所の体制強化や専門性向上を図り、児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応に努めます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

3 安全強靱・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

充実・強化する危機管理体制と防災教育

- ◆ 県、市町村をはじめ、関係機関等の連携により、災害や危機事象に的確に対応できる危機管理体制が整っています。
- ◆ 消防の連携体制の強化や消防団の活性化により、県民が安心して暮らせる消防力が整備されています。
- ◆ 学校と地域の連携のもと、防災士の養成や防災クラブの活動、児童・生徒の発達段階に応じた防災教育が行われ、防災力を身につけた若者が、地域や事業所の防災リーダーとして活躍しています。
- ◆ 住民の防災意識が高まり、自主防災組織を核とした住民中心の防災活動が活発に行われ、災害発生時の避難や救出救助活動、住民主体の避難所運営などが円滑に行えるようになっています。
- ◆ 口蹄疫や豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザなどの危機管理対策が強化されており、安全・安心な畜産物が消費者に提供されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 総合防災訓練や国民保護共同訓練等を実施し、県、市町村はもとより、自衛隊・警察・消防等の関係機関、医療・福祉・ライフライン事業者等との連携強化を図るなど、災害や危機事象への対応能力の向上を図ります。
- ◎ 消防本部の連携・協力、消防常備化等の広域化や、消防広域応援体制の強化を図るとともに、女性や若者など多様な人材の活用や事業所の協力により、消防団活動を地域ぐるみで支える環境づくりを推進します。
- ◎ 各学校では、地域と連携した防災教育を推進し、地域全体で防災教育に取り組む体制づくりや、防災を担う人材育成に取り組めます。
- ◎ 市町村をはじめ、大学や企業との連携による研修や講座を開催し、防災リーダーの養成や自主防災組織の能力向上を図るなど、防災活動の担い手育成を図ります。
- ◎ 家畜伝染病を予防し、畜産物の安全性を確保するため、家畜の所有者に対し、飼養衛生管理基準の遵守の指導・助言を行います。また、早期発見・通報体制を構築するとともに、発生した場合に備え、防疫資材の備蓄や関係機関との協力体制の整備を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

3 安全強靱・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

向上する地域防災力

- ◆ 自主防災組織や防災リーダー等が主体的に地域の防災活動に取り組み、県全体の地域防災力が強化されています。
- ◆ 南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害の発生を見据え、あらかじめ被害の最小化につながるまちづくりが着実に進められています。
- ◆ 県域を越えた災害応援などの取り組みにより、南海トラフ巨大地震はもとより、複数の災害が同時または時間をかけて発生する複合災害など、広域的な災害に対応する体制が整備されています。
- ◆ 災害関連死などの「防ぎ得た死」をなくすため、平時から医療や防災関係者だけでなく、住民・企業など地域ぐるみのシームレスな保健医療提供体制が構築され、要配慮者をはじめとする被災者の安全・安心に寄与しています。また、避難所等における被災住民の良好な生活を確保できる環境が整備されています。
- ◆ 地域の良質な社会資本の整備や維持・更新をはじめ、災害時には救援活動や応急復旧活動を担う建設産業が、中長期的な担い手の育成及び確保などにより健全に発展し、地域の防災力の向上が図られています。
- ◆ 国、地方自治体、民間事業者が一体となった災害廃棄物処理体制（広域処理）が確立されています。
- ◆ 多くの県内企業で、大規模災害時の「被害軽減」と「早期の事業再開」、さらには、「共助・相互扶助」を実践するための、実効性の高い企業BCP[※]の策定が進み、「災害に強い徳島企業ブランド」が確立し、地域全体として、取引先や市場からの信用・評価が高まっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 県民総ぐるみで防災意識の向上に向けた取り組みや防災訓練を実施し、FCP（家族継続計画）[※]の普及をはじめとする自助・共助の取組強化といった防災対策を推進するとともに、自主防災組織の活動活性化や、地域や企業における防災リーダーの養成・活動支援に取り組み、災害ボランティアの活動環境の整備を促進します。
- ◎ 持続可能な地域社会を実現するために、関係団体間の相互連携、補完体制を構築するとともに、ハード・ソフト両面から事前復興の取組みや自然エネルギーによる「自立・分散型電源」を活用した防災対策を推進します。
- ◎ 広域的な大規模災害に備え、関西広域連合及び中国四国ブロックとの連携強化に努め、災害対応能力の向上を図るとともに、同時被災の可能性が低い鳥取県との強固な協力体制を構築します。
- ◎ 「戦略的災害医療プロジェクト『基本戦略』」に基づき、「DMAT」、「災害時コーディネーター」「DPAT」、「DHEAT」等の災害時の保健医療に携わる人材の育成や、災害支援の国際基準の導入等による避難所における生活の質の向上、福祉避難所をはじめとする要配慮者への支援体制の充実に積極的に取り組むとともに、病院BCPの策定支援等を推進し、保健医療提供体制の確立を図ります。
- ◎ 地域を支える建設産業の健全な発展を図り、地域防災力が維持されるよう、担い手の確保・育成を推進するとともに、未来の担い手に向けて、建設産業の魅力とやりがいを発信します。
- ◎ 南海トラフ巨大地震や集中豪雨等で発生する災害廃棄物の処理に迅速に対応するため、「災害廃棄物処理計画」に基づき、広域処理の確立など、官民一体となった様々な対策を進めます。
- ◎ 業種業態に応じた実効性の高い企業BCP策定や、策定後の継続的な見直し・訓練を推進するため、より実践的な研修や専門家派遣による指導など、積極的な支援を行うとともに、企業が安定的に操業できる環境づくりに取り組みます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

3 安全強靱・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

県土強靱化の進展

- ◆ あらゆる大規模自然災害の脅威から、「県民の命や財産、生業を守る強さ」と「速やかに適応できるしなやかさ」を備えた「県土強靱化」が図られています。
- ◆ 木造住宅や民間建築物、公共施設や病院などの耐震化の進展により、安全・安心な住生活環境の確保や、災害時の防災拠点としての整備がなされ、「地震に強いとくしま」が実現しています。
- ◆ 気候変動に伴い頻発化・激甚化する豪雨災害や切迫する大規模地震などの大規模災害に対し、河川・海岸・砂防・治山・道路や農業用ため池などのハード整備に加え、ソフト対策が着実に推進されるとともに、既存インフラについては、I o T、A I等の革新技術も活用し、必要な機能が維持され、県民の安全・安心が確保されています。
- ◆ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合にも、各自治体が必要な防災対応を速やかに実施できる体制が整っています。
- ◆ 災害時の危険箇所が事前周知されるとともに、雨量や河川水位、避難情報などの防災情報がきめ細やかに、またリアルタイムに県民に届くことで、迅速な初動対応が可能となり、人命に関わる被害の軽減が図られています。
- ◆ 災害に強い情報化の進展に応じた防災情報提供体制の整備に加え、速やかな農業・漁業の再開が可能となる体制整備や、必要最低限のライフラインの供給確保、早期復旧を可能とする対策が進むなど、本県の業務継続性の確保はもとより、災害からの迅速な復旧・復興が可能となる態勢が整っています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「徳島県国土強靱化地域計画」に基づき、ハード・ソフトを組み合わせた効果的な施策を展開します。
- ◎ 切迫する大規模地震に対し、木造住宅の「耐震診断・改修」支援に加え、河川・海岸の地震・津波対策や事前復興の取組み等を進めるとともに、気候変動により頻発化・激甚化する豪雨災害に対しては河川改修の重点的な実施や砂防・治山・地すべり防止施設、農業用ため池等の整備を進めます。
- ◎ 円滑な救急救命・防災活動等が行えるよう、「命の道」となる四国横断自動車道や阿南安芸自動車道の整備促進、徳島自動車道における暫定2車線区間の4車線化や津波避難施設の設置といった高速道路を賢く使う取組みに加え、異常気象時における事前通行規制区間解消に向けた取組みや集落孤立防止のための道路整備、更には鉄道高架事業や四国新幹線実現に向けた取組みを推進します。
- ◎ 既存インフラについては、長寿命化計画等に基づく計画的な老朽化対策を進めるとともに、I o T、A I等の革新技術の積極的な活用による効率的・効果的な維持管理を進めます。
- ◎ 気象庁が発表する「南海トラフ地震臨時情報」に備え、市町村と連携のもと、人命に関わる被害軽減に向け、住民が安全に事前避難できる体制づくりを推進します。
- ◎ 「土砂災害警戒区域」の指定・周知や、きめ細やかな河川水位・雨量・避難情報の伝達など、住民避難の実効性向上に向けた取組みにより、防災意識の更なる向上や警戒避難体制の強化を図るとともに、山地防災ヘルパーによる山地災害危険地区の調査・点検パトロールの推進や山地災害の情報収集の強化に向けた体制強化を推進します。
- ◎ インターネットや携帯メールなど多様なツールによる県民への情報発信機能の充実に加え、関係機関における災害対応に必要な情報を共有する通信手段等の確保・充実を図ります。
また、電気・工業用水・水道の耐震化、工業用水道管路のダブルルート化など、ライフライン施設の強靱化に加え、迅速な復旧・復興を図るため、地籍調査の加速、農業版BCPや漁業版BCPによる現場対応力の強化を推進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

4 健康長寿・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

生涯現役！伸びゆく健康寿命

- ◆ 「健康寿命先進県」として、県民一人ひとりが健康に関心を持つとともに、主体的に健康づくりに取り組み、適切な生活習慣が定着することにより、糖尿病をはじめとする生活習慣病にかかる人が減少し、健康寿命の延伸が図られています。
- ◆ すべての県民が生涯を通じた歯・口腔の健康づくりに取り組む環境が整っています。
- ◆ 子どもたちが、積極的に運動に親しむ習慣や、郷土の食材を生かした望ましい食習慣を身に付け、「健やかな体」で生き活きと活動しています。
- ◆ 食への関心がより高まり、エシカル消費の推進を通じて、県産野菜をはじめ地元の農林水産物を活用した健全な食生活が定着することにより、健康増進が図られています。また、和食や郷土食、行事食などの食文化や豊かな自然環境に対する理解と関心が深まっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ バランスのとれた食生活や適度な運動習慣など、生活習慣の改善に取り組みやすい、ライフステージに応じた社会環境の整備を図るとともに、医療機関等の関係機関と連携し、糖尿病をはじめとする生活習慣病の発症予防・重症化予防を推進します。
- ◎ 県民自らの日常生活における歯と口腔の健康づくりに係る取組みを促進するとともに、ライフステージ等に応じた歯科保健医療を受けることができる環境整備を推進します。
- ◎ 全ての小・中学校で食に関する授業を実施し、地域の特色を活かした食育の展開と、学校給食への地場産物の活用を推進します。
- ◎ 児童生徒の健康課題改善のため、学校・家庭・地域が連携して、運動機会を増やす環境づくりや地域の特色を活かした食育の推進、望ましい生活習慣の定着を図ります。
- ◎ 豊かな自然環境の中で育まれた多様な食材に恵まれ、生産者と消費者の距離が近いという本県の特性を活かし、関係者が一体となって、野菜摂取の啓発をはじめとする県民運動としての食育を推進します。
- ◎ 県内で生産された農林水産物や、県産品を原料とした加工食品の「地産地消」やエシカル消費を推進し、健康で豊かな食生活と県産品の需要拡大を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

4 健康長寿・とくしまづくり②

＜目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿＞

心豊かな長寿社会

- ◆ すべての県民が安心して高齢期を迎えられ、生涯にわたり健康で生きがいを持ち続けながら、安心して暮らせる長寿社会が実現しています。
- ◆ アクティブシニア（元気な高齢者）が増え、それまでに培ってきた「知識」、「経験」、「能力」を活かし、「地域を支える主役」として生涯現役で活躍しており、「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。
- ◆ 医療、介護、生活支援などの地域ぐるみの支援が充実し、介護ロボット、A I、自動運転技術等も活用することにより、高齢者は可能な限り、住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを続けることができます。

＜実現のための主な施策の方向性＞

- ◎ 価値観の多様化や社会状況の変化に対応し、高齢者が新たな知識・技術の習得ができるよう、多様な学習機会を創出します。
- ◎ アクティブシニアが、社会貢献活動や就労など、多様な形で「地域を支える主役」となり、「生涯現役」で活躍していただくための支援を行います。
- ◎ 高齢期を迎えても生活の質を維持できるよう、要介護状態となる前段階での「フレイル予防」をはじめ介護予防に重点を置いた取組みを推進します。
- ◎ 高齢者が住み慣れた地域で可能な限り、自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が、各地域で一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の更なる深化・推進を目指して、市町村の実情に応じた取組みを支援します。
- ◎ 介護保険施設において、運動習慣の定着化を目指した取組みを推進する、身近で地域に開かれた「健康にぎわいの場」を創出し、糖尿病をはじめとした生活習慣病発症予防や、健康づくりを推進します。
- ◎ 「徳島県版『介護助手』制度」の実装や介護ロボット・A I等の活用により介護業務の効率化を推進し、介護職員の負担軽減や更なる処遇改善、職場環境改善の促進を図ります。また、イメージアップ戦略の展開により、介護人材の育成・確保を図るとともに、質の高い介護サービスを提供するため、介護サービス従事者の専門性や介護技術の向上を図ります。さらには、外国人介護人材の活躍を促進します。
- ◎ 教育委員会及び関係団体等と連携し、小中高生が介護の大切さを理解し、介護ロボットを活用した「体験学習」ができる機会の提供を行います。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

4 健康長寿・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

いつでもどこでも安心医療

- ◆ 徳島大学医学部の「地域枠[※]」で養成された多くの医師が第一線で活躍しており、医師の地域偏在や診療科偏在といった課題が解消されています。
- ◆ 全ての県民が住み慣れた地域で安心して暮らせる、多様なニーズに対応した質の高い保健・医療・介護サービスが提供されています。
- ◆ 24時間365日、救急患者を受け入れできる救急医療体制を守り、夜間・休日における子どもの急病などにも迅速に対応できる環境が拡充されています。
- ◆ 広域的なドクターヘリの運航及び近隣府県との連携により、県下全域を二重・三重にカバーする体制が拡充され、救命救急センター等で高度な医療を受けることができるようになっています。
- ◆ 母と子どもの命を支える産科や小児科の医療体制が連携し、安心して出産や育児を行うことができる地域が増えています。
- ◆ 国民皆保険を支える重要な基盤となる「国民健康保険制度」の安定的な運営が図られています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 医師の地域偏在や診療科偏在を解消するため、地域医療に貢献する医師の養成に努めるとともに、医師派遣・医師のキャリア形成支援の拠点として、「地域医療支援センター」の機能を強化します。
- ◎ 医療や介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、医療と介護が連携した切れ目のない在宅医療・介護サービスの整備を行います。
- ◎ 24時間365日対応可能な小児救急医療、夜間・休日の電話相談などの体制の充実を図ります。
- ◎ 関西広域連合広域医療局の事務局として、広域的なドクターヘリの一体的運航に加え、近隣府県におけるドクターヘリとの相互応援など「二重・三重のセーフティネット」のさらなる充実に取り組み、本県をはじめ関西全体に「安全・安心の輪」を広げていきます。
- ◎ 「総合周産期母子医療センター」において、妊産婦及び新生児等に対し、高度で専門的な医療を提供するとともに、「地域周産期母子医療センター」や産科医療機関との連携を強化することにより、周産期医療の充実を図ります。
- ◎ 国民健康保険の財政運営の責任主体として、安定的な財政運営や効率的な事業の確保を図るとともに、市町村、関係機関と連携し、被保険者の健康増進や、ポリファーマシー（多剤併用）による重複投薬や残薬等の課題に対応するなど、医療費の適正化に取り組みます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

4 健康長寿・とくしまづくり④

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

疾病に応じた適切な医療体制

- ◆ がん患者が尊厳を持って自分らしく生きることのできる社会が構築されるとともに、難病患者への医療提供体制の充実強化が図られ、地域で安心して療養できる体制が構築されています。
- ◆ いずれの地域においても、高度ながん医療が提供されるとともに、身体的・精神的な苦痛を緩和する体制整備が進み、がん患者及びその家族の生活の質の向上が図られています。
- ◆ 新たな感染症の流行に備えた、情報の収集・提供体制や検査体制の確立などが図られ、感染症危機管理体制が整備されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 科学的な根拠に基づくがん検診の普及や受診率向上に加え、がんに関する正しい知識の普及啓発、徳島がん対策センター等を中心とした相談支援や情報提供の充実等を図り、がん理解のある社会づくりを推進します。
- ◎ 県下各医療圏内のがん診療連携拠点病院等の機能強化と地域医療機関との連携を図り、より高度で専門的ながん医療を提供するとともに、診断時からの緩和ケアの充実を図ることにより、がん患者やその家族の支援を推進します。
- ◎ 難病患者への医療提供体制の充実強化を図るため、難病指定医療機関数の拡大を進めるとともに、在宅人工呼吸器患者への自家発電機導入を進め、災害時の安心確保の整備を推進します。
- ◎ 感染症のまん延を防止するため、感染症の発生動向を早期かつ的確に把握、分析し、地域に情報発信を行うとともに、適切な医療を行うための体制整備を進めます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

5 暮らし安心・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

新次元の消費者行政と食の安全安心確保

- ◆ 新次元の消費者行政施策及びライフステージに応じた消費者教育が定着し、全ての県民が消費者として合理的な意思決定を行い、消費者トラブルを回避し、被害に遭った場合にも適切に対処できる社会が実現しています。また、持続可能な社会の実現にも通じるエシカル消費が県民生活に定着するなど、徳島ならではのSDGsが実装されています。
- ◆ 各学校では、発達段階に応じた系統的・体系的な消費者教育が充実し、消費者市民社会の一員として、積極的に行動できる人材が育成されています。
- ◆ 食品の製造から販売に至る各段階における、HACCPに沿った自主衛生管理の向上と監視指導等の強化により、食の安全安心が確保されるとともに、消費者教育が推進され、誰もが適切に食品を選択し、豊かで健康な暮らしのできる社会が実現しています。
- ◆ 人と環境に配慮した持続可能性の高い農業が営まれ、「とくしまエシカル農産物^{*}」が消費者へ提供されるとともに、エシカル農産物について消費者の理解を高めることにより、生産から消費に至るまでの、食の安全・安心が確保されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 県内全市町村に設置された見守りネットワークが実効性のある活動を継続するための取組みや、エシカル消費、消費者志向経営を推進するとともに、若年者の消費者教育の充実を図ります。また、消費生活相談員の育成及び市町村の消費生活センター相談員の資質向上に向けた支援を行い、相談体制の強化を図ります。
- ◎ 成年年齢の引下げを見据え、自立した消費者の育成に向けて、幼児期からの各学校段階に応じた消費者教育の充実に取り組むとともに、地域の特性や地域の資源を活かした、学校・地域が一体となった実践的な消費者教育を推進します。
- ◎ 食品の監視指導の強化や、徳島県HACCP認証の普及、HACCPアドバイザー育成による事業者の自主衛生管理の向上を図るとともに、事業者への食品表示適正化支援の取組み、リスクコミュニケーション^{*}の深化により、県民の食に対する安全安心の確保を図ります。
- ◎ GAP認証の取得支援やエコファーマー^{*}の育成、有機農業の推進等に取り組む、人と環境に配慮した持続可能性の高い農業により生産された「とくしまエシカル農産物」の消費者への認知度向上と生産・販路の拡大を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

5 暮らし安心・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

心通いあう温かな地域

- ◆ 地域の住民どうしが、お互いを大切な存在として、助け合いながら「地域づくり」を行うことで、「地域の絆」が一層深まり、ひとり暮らしの高齢者や認知症高齢者、障がい者等が、住み慣れた地域でより安心して生活をしています。
- ◆ 地域における多様な支え手により、自殺対策が「生きることの包括的な支援」として実施され、自殺者数が減少しています。
- ◆ 県民一人ひとりの動物愛護と適正飼養に関する意識が向上し、人と動物がともに暮らせる、うるおいと喜びのある地域が実現しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 誰もが共に支え合い、安心して暮らせる地域共生社会を実現するため、「徳島県地域福祉支援計画」に基づき、市町村、地域住民、事業者、社会福祉法人等の福祉活動団体と連携しながら地域福祉の推進を図ります。
- ◎ 地域社会から孤立しがちなひとり暮らし高齢者等が、住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、日常的な見守り体制の充実強化を図るとともに、地域住民が認知症について理解し、地域全体で認知症高齢者を支えていくための支援の充実を図ります。
- ◎ 認知症高齢者や知的障がい者等、判断能力が十分でない方の日常生活の自立支援や権利擁護を推進します。
- ◎ 生活保護受給者をはじめ生活困窮者の自立を促進するため、ハローワーク等関係機関と連携して就労支援を推進します。
- ◎ 自殺対策に関する啓発活動における連携拡大や自殺予防サポーターの養成を通じ、自殺は「誰にでも起こり得る危機」という認識を社会で共有するとともに、多様な支え手による相談・支援体制の充実を図るなど、県民総ぐるみによる自殺対策を推進します。
- ◎ 譲渡交流拠点施設「きずなの里」を活動拠点として関係団体・ボランティアと一体となり、「助けられる犬・猫殺処分ゼロ」を目指し、飼い主への返還や新しい飼い主への譲渡及び不妊去勢手術を推進します。また、ふれあい活動等を通じ、県民の適正飼養と動物愛護の意識の向上を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

5 くらし安心・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

体感治安向上と交通マナー先進県

- ◆ 街頭での警察官やパトカーによるパトロール活動等の頻度が増えるとともに、地域における治安維持の活動拠点である警察施設（警察署、交番及び駐在所等）の再編・整備が進むことにより、体制が強化され、県民の体感治安が向上しています。
- ◆ 県民一人ひとりの防犯意識が高まるとともに、交通安全意識・交通マナーの向上と自動運転技術の確立に伴い、交通事故が低減し、幼児から高齢者まで安全で安心して暮らすことができる地域社会が実現しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 犯罪の未然防止、県民の体感治安の更なる向上を図るため、パトロールや立番など、「県民から見える警察活動」の強化に取り組むとともに、県民の理解を得ながら、治安情勢、社会環境の変化や災害リスクに対応した警察署、交番及び駐在所等の再編・整備を進めます。
- ◎ 街頭犯罪^{*}等の発生状況を分析し、効果的な抑止対策を実施するとともに、県民の犯罪に対する抵抗力の向上を図るため、積極的な情報発信を行うなど、安全で安心なまちづくりを推進します。
- ◎ 「交通マナー先進県」を目指して、県民一体となった交通安全思想の浸透を図り、交通マナーの向上と交通ルール遵守に向けた運動を展開するとともに、高齢者を交通事故から守るため、関係機関と連携しながら、総合的な高齢者交通事故防止対策を推進します。
- ◎ 全ての人々が安全に安心して暮らせるよう、歩道等の整備や、事故危険箇所における交通安全対策を推進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

6 脱炭素実現・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

持続可能な未来に向かう社会

- ◆ 「すだちくん未来の地球条例」の理念が社会の隅々にまで浸透し、県民や事業者をはじめとするあらゆる主体がSDGsや「脱炭素社会」の実現に向けて、気候変動対策の推進役を担っています。
- ◆ 気候変動対策の必要性が県民に浸透し、「緩和策」及び「適応策」の実践拡大が推進されています。
- ◆ 子どもから高齢者まで、環境問題への理解力と実践力が養成される環境が整い、「環境首都とくしま・未来創造憲章」に基づく環境にやさしいライフスタイルが確立されるとともに、それぞれの役割・責任に応じた環境活動に主体的に取り組むことで、幸福感、充実感を味わっています。
- ◆ 学校を拠点に、地域と連携した環境学習が積極的に行われることにより、環境問題・環境保全について関心を持ち、様々な課題解決に向け実践力を身に付けた子どもたちが育つとともに、家庭や地域においては、持続可能な社会の構築に向けた環境意識が浸透しています。
- ◆ SDGsの実現に向けて、環境に配慮したエシカル消費の認知度が高まり、県民一人ひとりが思いやりのある消費行動や事業活動を行い、持続可能な社会が構築されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 脱炭素社会の実現に向けて、県が率先して節電・省エネに取り組むとともに、「徳島夏・冬のエコスタイル」等の展開を通じ、県民・事業者に「賢い省エネ」・省資源の取組みの定着を広く呼びかけ、さらに一歩進んだ「ライフスタイル（ビジネススタイル）の転換」を推進していきます。
- ◎ 「徳島県地球温暖化対策推進計画」に基づき、県民、事業者、行政が、互いに連携、協働し、主体的に各種施策に取り組み、各分野において温室効果ガス排出量を削減します。
- ◎ 気候変動の影響について理解を深め、「適応策」へとつながるよう、日常生活や事業活動への影響について、県民への情報提供や普及啓発を推進するとともに、異常気象に対応した防災対策や温暖化に適応した農林水産物の新たなブランドの創出など、高等教育機関や関係団体等と連携し、具体的な取組みを加速します。
- ◎ 誰もが、自主的、主体的に環境活動に取り組むことができるよう、「エコみらいとくしま（環境首都とくしま創造センター）」を拠点に講座や学習会を実施し、環境活動の「わ」が広がる人づくり、地域づくりを進め、指針となる「環境首都とくしま・未来創造憲章」の普及を図ります。
- ◎ 学校施設において、内装の木質化、節水や省エネ器具の導入などを進め、すべての学校を地域の環境教育の拠点とすることにより、地域全体で取り組む環境保全活動の充実を図ります。
- ◎ 学校・家庭・地域の連携で広げるエコプロジェクトとして、「新学校版環境ISO^{*}」の取組みを充実・発展させ、学校・家庭・地域がより一層連携した環境学習の取組みを進めます。
- ◎ 県民に身近な環境課題である食品ロスやプラスチックごみの削減について、県民一人ひとりの消費行動の実践につながる講座等の啓発活動を実施します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

6 脱炭素実現・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

地域のポテンシャルを活用し、安定的にエネルギーが供給される社会

- ◆ 地域で賄え、温室効果ガスをほとんど出さない「自然エネルギー」が、様々な分野で「主力電源」として最大限活用され、エネルギーの安定供給や地球温暖化対策が進んでいます。
- ◆ 自然エネルギーの活用による地域の活性化、地元雇用の創出により、SDGsの理念に基づく持続可能な社会の構築が進んでいます。
- ◆ 「災害に強い」自然エネルギーの特性を活かした「自立・分散型電源」の導入が進み、AIやIoTで電力変動に対応できる柔軟なエネルギーシステムが確立されています。
- ◆ 水素ステーションの普及拡大とともに、燃料電池自動車・バスをはじめ多様な水素モビリティの社会実装が進むなど、水素社会の実現が着実に進展しています。
- ◆ 県内市町村において、「バイオマス活用推進計画」に基づき、各種バイオマス資源が有効に活用され、環境関連技術を活かした地域づくりが進んでいます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」に基づき、「エネルギーの地産地消」や「災害に強いまちづくり」に向け、県民、事業者、行政等が一体となって、様々な取り組みを行い、自然エネルギーの導入を促進します。
- ◎ 地域資源を活かした「エネルギーの地産地消」の推進に向け、小水力発電やバイオマスの導入を促進するとともに、地域協働型の自然エネルギー導入を実践し、環境とビジネスの両立を目指す人材の育成を図ります。
- ◎ 農業水利施設等を活用した小水力、太陽光、風力などの自然エネルギーの利活用や木質バイオマスなどの未利用資源の有効利用により、施設の維持管理費の軽減や農山漁村の振興を図ります。
- ◎ 環境分野における国際交流を推進し、先進的な自然エネルギーの導入事例や電力変動に対応するエネルギーシステムについて意見交換等を行い、「自立・分散型電源」による災害に強い社会を構築します。
- ◎ 水素社会の早期実現に向け、国補助金等を活用し、水素ステーションの整備や多様な水素モビリティの社会実装の促進など、需要・供給両面での取り組み拡大を支援します。
- ◎ 産学官金連携によるビジネスプラットフォームにより、水素ビジネスに参入する事業者を支援します。
- ◎ 本県の特性を活かし、未利用木質資源や家畜排せつ物などバイオマスの生産・利用を推進し、環境関連技術を活かした地域づくりに取り組みます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

6 脱炭素実現・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

もり 未来につなぐ豊かな森林づくり

- ◆ 間伐による森林の整備や、伐採・再造林による更新が進み、水資源のかん養、山地災害の軽減、二酸化炭素吸収量の増加など、公益的機能の高い健全な森林が増加しています。
- ◆ 「森林環境税・森林環境譲与税」を活用した「新たな森林管理システム」の円滑な運用により、多様な森林の管理形態が展開され、森林が放置されることなく適正な管理が継続し、豊かな森林がしっかりと引き継がれています。
- ◆ 森林の重要性が再認識され、森林資源の活用や、環境財としての保全活動が活発に行われるなど、生活の端々に再び森林が取り入れられています。
- ◆ 林道や林業専用道、森林作業道などの路網が効率的に森林内に整備されており、森林が健全な状態で維持・管理され、持続的な林業経営が行われています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「徳島県豊かな森林を守る条例」に則し、県・市町村・林業関係者、さらには、県民や企業・NPOなどと協働した体制のもと、森林保全に向けて、県民総ぐるみの取組みを推進します。
- ◎ 多様で健全な森林を育成するため、「新たな森林管理システム」を円滑に運用し、人工林の適切な間伐や針広混交林への誘導による適正な森林整備とともに、資源を循環利用するための伐採・再造林を進めるなど、計画的な森づくりを推進します。
- ◎ 私有林の割合が高い本県にあって、個人のみでは管理することが難しくなった森林について、所有者と事業者をつなぐ「とくしま森林バンク（仮称）」を創設し、公有林化をはじめとした公的機関が主導する森林管理を推進するとともに、個人の所有森林を経営管理できる林業経営体を育成します。
- ◎ 森林の有する水資源及び県土の保全機能の維持増進を図り、適切に管理・保全していくため、「とくしま県版保安林」と保安林の指定による森林の公的管理を加速します。
- ◎ 山地に起因する災害から、県民共通の財産である豊かな森林を守るため、治山事業や間伐等の森林整備を推進します。
- ◎ 豊かな森林を継承するため、カーボン・オフセットの仕組みを導入した企業・県民との協働の森づくりをはじめとする、多様な森林の管理を推進します。
- ◎ 県営水力発電所の水源地域において、公有林化及び間伐等の森林整備を支援します。
- ◎ 森林の適正管理と木材増産の担い手となる人材の育成・確保を図るため、小中高・大学生からシニア層までの幅広い年代や技術力に合わせた学びの場を創設します。
- ◎ 森林資源の循環利用を推進できるよう、植林から木材生産までの森林サイクルを確保するとともに、複合的な林内路網の整備を加速することにより、森林施業の効率的な実施と生産性の向上を促進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

7 循環共生・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

生物多様性の確保

- ◆ 生物多様性という地域資源を活かしたコンパクトな循環型社会を実現するため、地域が一体となった取組みが県内各地で行われ、豊かな生物多様性の恵みが未来へと引き継がれています。
- ◆ 自然エネルギーの導入を促進し、地球温暖化による自然環境への負荷を減らすため、土地利用と生物多様性や生態系の保全との両立が実現しています。
- ◆ 希少野生生物のうち絶滅が危惧されていた種について、県民の熱意ある保護活動により、生息数が増加に転じています。
- ◆ 本県の特色である豊かな自然が保全され、「鳴門公園」をはじめとした本県の優れた自然景観を楽しむ利用者が増えています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 県民との協働により「生物多様性とくしま戦略」を推進し、本県の豊かな生物多様性を保全することで、その地域資源の持続可能な利用に努めます。
- ◎ 生物多様性の考え方を広く浸透させるため、普及啓発や保全活動の担い手の中心となる人材を育成します。
- ◎ 「コウノトリ里親センター（仮称）」を設立し、コウノトリを県内生物多様性のシンボルとして普及啓発の取組みを推進します。
- ◎ 本県の優れた自然景観等を有する自然公園については、その景観に配慮した安全・安心な整備を進めるとともに、トイレの洋式化の推進など、利用者の受入環境の整備に努めます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

7 循環共生・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

鳥獣適正管理と利活用

- ◆ 野生鳥獣の適正管理を担う事業者や若手狩猟者が増え、積極的な捕獲により個体数が減少、生息域が縮小するとともに、ジビエとしての利活用も進み、農林水産物の被害低減による農林水産業の活性化や、自然植生の回復が図られています。
- ◆ 「阿波地美栄」が徳島の食文化として定着し、ジビエ料理が県内各地で一年を通じて味わえるなど、ジビエを地域資源とする新たな産業が創出され、中山間地域が活性化しています。
- ◆ 「処理加工施設」が県内にバランスよく整備されるとともに、「徳島型養鹿システム」を活用した「ハラル対応シカ肉」の安定供給・輸出体制が整い、「阿波地美栄」がイスラム圏の人気食材となっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 人と野生鳥獣との適切な関係を構築するため、「特定鳥獣管理計画」に基づく加害鳥獣の積極的な捕獲を推進します。
- ◎ 若年層や女性などを対象に、狩猟や捕獲鳥獣の利活用に必要な知識や技術を習得するための講座を開催し、次世代の鳥獣適正管理の担い手を育成します。
- ◎ 農林水産業の生産活動促進や農山漁村の活性化を図るため、シカ、イノシシ、サル、カワウなどの鳥獣被害防止対策を関係機関等と連携して総合的・広域的に実施します。
- ◎ 「ジビエ産業の創出」を実現するため、捕獲鳥獣の安定供給体制の構築をはじめ、処理加工から流通販売、消費までの一貫した取組みを強化するとともに、「阿波地美栄サミット（仮称）」を開催するなど日本ジビエサミットのレガシーを創出します。
- ◎ 空白地帯となっている東部圏域における処理加工施設の整備を促進し、「阿波地美栄」の供給体制を強化します。
- ◎ 大学等との連携により、シカの「一時飼養システム」を構築するとともに、県内全域の処理加工施設への普及展開を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

7 循環共生・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

進む循環型社会への転換

- ◆ 県民誰もが「環境にやさしい生活」を心がけ、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から、環境負荷が低減された循環型社会へとライフスタイルが転換しています。
- ◆ 県民や事業者の環境意識やモラルが醸成され、3 R意識^{*}が浸透することにより、使い捨てプラスチックや食品ロスの削減などによる廃棄物の排出抑制や適正処理及び様々なリサイクルシステムの導入が進み、廃棄物ゼロ社会が実現しています。
- ◆ 各種リサイクル制度が改善され、軌道に乗るとともに、プラスチック資源循環体制や太陽電池モジュールのリサイクルなどが確立され、循環を基調とする健全な社会が実現しています。
- ◆ 環境に配慮した持続的な農林水産業が営まれており、新たな付加価値のある「安全・安心な農林水産物」が県内外の消費者などに提供されるとともに、耕畜連携の進展に伴う家畜排せつ物の有機資源としての利用拡大や、鶏糞のエネルギー資源としての熱利用など、循環型農業の推進が図られています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「ゴミゼロの日」キャンペーンなど環境美化の取組みを、産学民官の連携、協働により推進し、すべての県民に対し「ゴミを出さない、捨てない」という意識の定着を図るとともに、使い捨てプラスチックの削減やA IをはじめI C Tを活用した食品ロス削減等の環境活動を推進します。
- ◎ 県民や事業者に3 R意識の浸透を図るとともに、各種リサイクル制度を推進し、廃棄物のリサイクルを進めます。
- ◎ 廃棄物の適正処理を推進するため、不法投棄等の監視活動を強化するとともに、県民との協働により、きめ細やかな対策を進めます。
- ◎ 有機質資源を循環利用した土づくりによる有機農業といった、環境に配慮した持続可能な農林水産業を推進し、家畜排せつ物などについては、適正な管理・処理はもとより、バイオマス資源としての利活用を推進し、農村地域の環境保全や資源の有効利用を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

7 循環共生・とくしまづくり④

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

美しく快適な生活環境

- ◆ 事業者による環境配慮への自主的な取組みが進み、事業活動等によって生じる環境負荷の低減が図られ、本県の良好な環境が保全されています。
- ◆ 汚水処理人口の増加や、工場・家庭等からの排水処理対策の徹底により、海、川の水質が向上し、清潔・快適な生活環境や、全国トップクラスの安全で豊かな水環境が維持されています。
- ◆ 工場等からのばい煙や自動車からの排出ガス削減への効果的な取組みが進み、健康に暮らせる、さわやかな大気環境が守られています。
- ◆ 地域住民の景観に対する意識が高まり、自然や歴史・文化に根ざした良好な景観が形成され、豊かな自然環境のもと、美しく快適な生活環境を備えた、個性的で魅力的な地域が県下に広がっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 大気、水、土壌環境の機動的・効率的な監視を実施し、適切に情報を発信するとともに、事業者の自主管理や地域社会での取組みを推進します。
- ◎ 下水道や合併処理浄化槽等の整備など地域の実情に合わせた汚水処理施設の整備を推進することにより、汚水処理人口普及率の向上を図ります。また、きれいな水環境の創造に向け、下水道への接続率の向上や浄化槽の適切な維持管理の実施に向けた普及啓発活動を行います。
- ◎ 工場等からの化学物質の排出による周辺環境への影響を最小化するため、事業者による化学物質の排出削減と適切な自己管理の取組みを促します。
- ◎ 豊かな自然環境や歴史・文化と調和した良好な地域景観づくりに向け、新たな担い手の育成や官民協働による景観に配慮したまちづくりを進めます。
- ◎ 美しい景観の形成や生物の多様性・生産性が確保された「豊かな海（里海）」を創生し、次世代へと継承していくため、地域活動を主体的に行う人材の育成を図ります。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

1 未来人材育成・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

特色と魅力のある教育環境

- ◆ 電子黒板・タブレット端末等のICT機器や、高速ブロードバンドを活かした教育環境が整い、これらを活用した多様な学習活動の展開や個に応じた指導の充実が図られ、全ての子どもたちが、情報活用能力などの学習の基盤となる資質・能力を育てています。
- ◆ 専門的な教育や、高度な産業教育を受けることができる学習環境が整い、産業界において即戦力となる優秀な人材や、大学においてさらに専門性を探究する人材が育成されるとともに、少子高齢化の進行やグローバル化の進展等、社会状況の変化に対応した教育が、県内各地で総合的に展開されています。
- ◆ 各高等学校が「地域の教育・文化の創造拠点」となって、魅力ある学校づくりの推進や地域との連携強化が図られており、全国、そして世界で通用する将来のリーダーを育成しています。
- ◆ 学校と家庭、地域、関係機関の連携が深まり、災害安全（防災）・交通安全・生活安全（防犯）に向けた取組みが総合的かつ効果的に行われ、それぞれの地域で子どもの笑顔があふれています。
- ◆ 義務教育の学び直しを希望する方や外国籍の方などに対し、「多様な学びを支える」安心感に満ちた教育環境が整っています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ テレビ会議システムでの遠隔授業の実施や、タブレット端末を取り入れた特色ある指導方法の確立など、ICTを効果的に活用した教育の多様化と効率化を推進します。また、ビッグデータ等の新しい技術を活用した個に応じた指導を始め、プログラミング的思考や情報モラル等の情報活用能力を育成する学習活動の充実を図ります。
- ◎ すべての小・中学校において、少人数学級編制や少人数指導を推進するとともに、小学校英語専科教員の配置を進めることなどにより、教育の質を高め、児童生徒に対するきめ細やかな教育を推進します。
- ◎ 中等教育学校の開校をはじめ、一貫した学習環境のもとで学ぶ機会を選択できる中高一貫教育のさらなる充実とともに、「チェーンスクール」「パッケージスクール」など、小・中学校が連携した教育の展開により、児童生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育活動のより一層の充実を図ります。
- ◎ 活力と魅力ある教育活動を展開するため、グローバル教育や、地域資源を活用した教育を行うとともに、技術革新の進展や産業構造の変化を見据え、産業教育の活性化と6次産業化に対応した教育を展開し、高等学校の特色化・魅力化を図ります。
- ◎ 科学オリンピックへのチャレンジなど、全国、さらに世界を目指す取組みや研究活動を展開することにより、特色ある教育活動のレベルアップを図ります。
- ◎ 学籍を異動させずに学校の行き来が可能となる「新しい学校のかたち」を制度化するため、本県発「デュアルスクール」のモデル事例を積み重ね、その意義を県内外に発信します。
- ◎ 地域住民の参画により学校安全を総合的に支援する体制を整備し、子どもの安全・安心の確保を図ります。
- ◎ 全国初となる県立夜間中学を開校し、学齢期を経過した方に対し、義務教育を受ける機会を実質的に確保します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

1 未来人材育成・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

郷土愛に満ちた若者の活躍

- ◆ 学校・家庭・地域の連携により地域の教育力が高まっている中、子どもたちは、優れた芸術や伝統芸能などにふれたり体験したりすることで、郷土への愛着が生まれ、「ふるさと徳島」への誇りを胸に豊かに学び、主体的に夢や希望を見つけることができる環境が整っています。
- ◆ 規範意識や公共の精神、思いやりなどの心とともに、「ふるさと徳島」への誇りと愛着を併せ持った、地域の活性化・発展に貢献する人材が育っています。
- ◆ 英語等によるコミュニケーション能力を身に付け、「ふるさと徳島」への誇りを胸に、多様な価値観への理解と国際的な視野を持ち、主体的に行動できるグローバル人材が育っています。
- ◆ 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた、発達段階に応じたキャリア教育の推進により、すべての子どもたちが、自分自身の将来を見据えたキャリア形成を図ることができ、徳島や日本の未来を創る人材が育っています。
- ◆ 将来の夢を育むために必要な知識・経験を得ることができる活動や交流の場が身近にあり、青少年が自らのアイデアや感性を活かし、主体的に活動しています。また、若者が社会に積極的に参画し、その意見が政策に活かされています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 地域住民やNPO法人、地元で活躍する音楽家や芸術家など多様な人的資源を活用した地域の教育支援体制づくりを進めるとともに、地域の自然や伝統芸能を体験する機会を充実させることにより、子どもたちの夢を育み、郷土を愛する心を育てます。
- ◎ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が連携し、人、社会、自然との関わりを生かして、児童生徒の豊かな心を育成します。
- ◎ 英語教育のさらなる充実と、児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域の特色を生かした外国人との交流などの体験的学習を通して、国際的な視野を養い、自ら積極的に行動できる児童生徒を育成します。
- ◎ 学校・家庭・地域が連携し、職場見学や職場体験、インターンシップや地域行事への参加等、体験的活動の充実をはじめ、児童生徒自身が学びを振り返り、自らの将来とキャリア形成を考える機会を設けるなど、教育活動全体を通じたキャリア教育を推進し、持続可能な社会の担い手の育成を図ります。
- ◎ 若者が世代や職種を超えた幅広い層の人々と交流し対話することによって、社会参画への意欲向上を図るとともに、課題解決のアイデアを創出する地方創生の若手リーダー育成に取り組みます。
- ◎ 公募制の活用などにより県審議会等委員への若者の登用を推進し、政策方針決定過程への参画を促します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

1 未来人材育成・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

個性がひらく特別支援教育

- ◆ 特別支援学校では、障がいのある生徒の職業技能や就労意欲が向上し、社会参加や地域貢献活動が推進されるとともに、企業の障がい者雇用への理解が進むことにより、生徒の働きたい想いが実現し、それぞれの個性を輝かせ社会で活躍しています。
- ◆ 幼・小・中学校では、肯定的で適切な行動を促す「ポジティブな行動支援」が浸透し、障がいのある子どももいない子どもも、自発的に学ぶことができている。また、高等学校では発達障がい等のある生徒への支援が充実し、生徒の就労や自己実現につながっています。
- ◆ すべての学校において、教員の特別支援教育についての専門性が向上し、障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶ「インクルーシブ教育システム^{*}」による「多様な学びの場」において、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援が行われています。
- ◆ 特別支援学校間で、それぞれの専門性を相互に提供し、補完し合うことにより、障がいに応じた指導、職業指導、文化・スポーツ活動など、幼児児童生徒一人ひとりの多様な教育的ニーズに対応した質の高い専門的な教育がすべての特別支援学校で行われています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 特別支援学校の幼児児童生徒の将来を見据えたキャリア教育を推進することにより、生徒の職業技能や就労意欲の向上や、福祉、教育、医療、労働等の関係機関の連携の強化を図るとともに、企業の障がい者雇用への理解を促進することで、特別支援学校生徒の働きたい想いに応える就労支援をさらに充実します。
- ◎ 幼・小・中学校において「ポジティブな行動支援」に取り組むとともに、高等学校では発達障がい等のある生徒の支援の充実を図るため、将来の社会的自立にむけた教育を推進します。
- ◎ すべての学校の教員が、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援ができるよう、ICTを活用したe-ラーニング教材や特別支援教育の最新の知見に基づいた研修を実施し、教員の特別支援教育に関する専門性向上に取り組めます。
- ◎ 特別支援学校間で、専門性を高めるための研修や、職業指導、文化・スポーツ活動などの合同実施や、ICTを活用した情報連携を図ることにより、それぞれの特別支援学校の専門性を共有し、幼児児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた質の高い専門的な教育を展開します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

2 誰もが活躍・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

ニーズを捉える生涯学習・リカレント教育

- ◆ 県民ニーズを捉えた講座等の充実に加え、人生の多様な時期に多彩な方法で学習可能な環境が整備されており、学んだ成果が講師やボランティア活動等を通じて積極的に地域社会に還元され、さらなる生きがいづくりや地域活性化につながっています。
- ◆ 技術革新の進展に対応したスキルアップや能力開発を図り、県民自らがキャリア形成を行うとともに、人口減少、超高齢社会の中で「多様な人生の再設計」が可能となる、ライフステージに応じたリカレント教育など生涯を通じた学習機会が充実し、誰もが活躍することのできる「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、高等教育機関や企業、NPO、市町村等の関係機関との連携を一層推進し、生涯学習情報のワンストップでの提供や、県民ニーズや社会潮流を捉えた講座の充実により、あらゆる世代の学び直しをはじめ、県民の生涯学習を支援します。
- ◎ 関係団体とのネットワークづくりを行うとともに、多岐にわたる各種講座やイベントの情報をタイムリーに発信し、誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができる機会を提供します。
- ◎ 高等教育機関や産業界等と連携して、専門的・実践的なリカレント教育の充実を図ります。
- ◎ 勤労者のキャリアアップや学び直しを促進するため、協調融資制度等を通じ、経済的負担の軽減を図ります。
- ◎ 子供の頃から技能の面白さや大切さを身近に感じる機会を設け、興味関心を喚起するとともに、職業訓練施設などにおいて、学卒者、子育て中の女性や外国人材など多様な人材に対するリカレント教育を実施し、職業能力開発を促進します。
- ◎ 産業界のニーズに応じた高度な人材を育成するため、実践的な知識・技術の習得に資する機会の提供や支援策の充実を図ります。
- ◎ 農林水産業における多様な人材の育成・確保を図るため、リカレント教育の推進による女性やアクティブシニアなどの活躍を支援します。さらに、生産を支える労働力確保に向け、農福連携の推進による障がい者の活躍や外国人材の活用を促進するための支援に取り組みます。
- ◎ 建設産業の担い手の確保・育成を推進するため、建設産業従事者の技能・経験に応じたスキルアップを支援します。さらに事故を防ぐ安全教育や体力づくりを実施し、アクティブシニアの活用を支援します。

II 「多様性実感！共生とくしま」の実現

3 広がるダイバーシティ・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

障がいのある人もない人もいきいきと暮らせる社会

- ◆ すべての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、障がいのある人とない人が、お互いに支え合っ交流・活動するなど、地域で共に安心して、いきいきと暮らせる「共生社会」が実現しています。
- ◆ 障がい者が、自らの能力や障がい特性に応じて働く場を確保できるとともに、自らが選んだ地域で安全・安心に暮らし、社会の中で自立して生活することができるよう、就労支援、地域移行・地域生活支援等の必要なサービス提供体制が整備されています。
- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、スポーツ・芸術文化などを通じた交流が進み、障がい者が地域の一員として、いきいきと活躍できるなど、障がい者の自立と社会参加が実現し、「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。
- ◆ 県民のすべてが「発達障がい」を正しく理解し、発達障がい者が自立し、日々充実した暮らしを送っています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「障害者差別解消法」や「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」に基づき、障がいについての理解を深めるとともに、障がい者への差別や偏見を取り除くため、県民一人ひとりの「心のバリアフリー」を促進します。また、手話や要約筆記等の専門的知識・技能を有する人材の育成や、障がいの特性に応じた意思疎通支援等に取り組み、障がいの有無にかかわらず、全ての県民が互いに人格や個性を尊重し、いきいきと暮らせる徳島づくりを目指します。
- ◎ 障がい者の地域移行を促進するとともに、地域での生活をより一層安心できるものとするため、平時は地域住民の交流拠点、災害時は要配慮者の防災拠点としての機能を併せ持つ「地域生活支援拠点」の整備を進め、地域全体で障がい者を支える「地域包括ケアシステム」を推進します。
- ◎ 障がい者を総合的に支援できる実践力の高い人材を養成するため、相談支援専門員等の段階的な研修や、より効果的な実地研修を組み込むことにより、障がい福祉サービスの充実を図ります。
- ◎ 障がい者の職業的自立を支援するため、事業主をはじめ県民への意識啓発や、就労の場を確保するとともに、障がい者の多様な特性を活かし、地域貢献などのさらなる活躍の機会を創出します。
- ◎ 障がい者が地域社会において自立し、いきいきとした生活が営めるよう、授産製品のブランド力を強化するとともに、インターネット等を通じた販路拡大、就労施設で栽培した農産物の生産から販売までの一体的なシステムの構築により、障がい者就労支援施設利用者の工賃アップを図ります。
- ◎ 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、障がい者のスポーツ・芸術文化活動等への参加を一層促進し、障がい者の生活を豊かにするとともに、障がい者の自立と社会参加の促進を図ります。
- ◎ 発達障がい者（児）が、地域の実状に応じたきめ細やかな支援を受けられるよう、地域や関係機関と連携したネットワークづくりを推進するなど、支援体制の充実を図ります。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

3 広がるダイバーシティ・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

男女共同参画とDV・性暴力のない社会

- ◆ 「男女共同参画社会の形成は、男女を問わずすべての人にとって、より暮らしやすくなるものである」という理解が浸透しています。また、性別により差別されることがなく、個性や能力を發揮できる「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。
- ◆ 多様な生き方を選択できる環境が整い、男女とも仕事と家庭生活、地域活動が両立可能となることで地域が活性化するなど、ますます女性の活躍が促進され、地域における重要な方針や計画等を決定する場においても、男女が共同して積極的に参画し活躍しています。
- ◆ DVや性暴力のない社会が実現し、住み慣れた地域で安心して生活することができています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「ときわプラザ（男女共同参画交流センター）」において、女性活躍に向けたワンストップサービスの提供や、民間団体とも連携した「フレアキャンパス講座」の開催等により、男女共同参画についての相談・情報発信機能や啓発・学習効果を拡げます。
- ◎ 政策・方針決定過程をはじめ、多様な分野に女性が参画できるよう、「とくしまフューチャーアカデミー」による人材育成や、男女協調月間における啓発フェスティバルの開催等により、社会全体の意識改革を進めます。
- ◎ DVや性暴力による被害者の相談に的確に対応するとともに、支援体制の充実のため、関係機関等との連携強化や支援者、民間支援団体の育成に取り組みます。また、将来にわたる被害・加害を防ぐため、若年層を対象とした啓発事業等を推進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

3 広がるダイバーシティ・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

多文化共生のまちづくり

- ◆ 「多文化共生のまちづくり」が実現し、言語や文化の違いを踏まえた外国人への温かい「お接待の心」による対応で外国人とのコミュニケーション能力が優れた県、「ダイバーシティ徳島」として、国内外から評価されています。
- ◆ 多くの外国人が仕事や留学目的で徳島に訪問・在住し、生活情報や観光情報をはじめとする様々な情報が多言語で提供されるとともに、語学力を備えた人材による支援や災害に備えた外国人支援体制が充実しています。
- ◆ 本県と友好交流を提携する多くの国や地域との間で、行政のみならず民間においても、観光や経済、学術、文化・スポーツなど幅広い分野で交流が行われ、世界中で「徳島」に親しみを持つ人々が増えています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 徳島県国際交流協会や民間団体と連携し、小中学校・高等学校や地域の国際交流事業に、在住外国人や外国での生活経験がある方々を派遣して、県民の幅広い外国文化に触れる機会を充実し、県民の多文化共生意識の醸成を図ります。
- ◎ 外国人支援ネットワークを充実し、県内の国際版ワンストップ情報受発信拠点である「とくしま国際戦略センター」を核として、多言語による相談窓口の充実や災害時に備えた在住外国人支援体制の整備、支援にあたる各種ボランティアの育成を図るとともに、在住外国人の日本語能力の向上等に向け支援体制の強化を図ります。
- ◎ すだちくんハローワークにおいて外国人の労働に関する相談対応を行う窓口を設置し、相談体制の充実強化を図ります。
- ◎ 友好交流提携を行っているドイツ・ニーダーザクセン州、中国・湖南省、ブラジル・サンパウロ州をはじめ、多くの国、地域と相互に利益を感じられる県・民間レベルの友好交流を推進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

3 広がるダイバーシティ・とくしまづくり④

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

すべての人の人権が尊重される社会

- ◆ 県民一人ひとりが、生命の尊さや人間の尊厳を認識し、「自分がかげがえのない存在であるとともに、他人もかけがえのない存在である」という人権尊重の理念が定着するとともに、性別や国籍の違い、障がいの有無など、多様性（ダイバーシティ）に関する理解が県民の間で幅広く浸透し、「すべての人々の人権が尊重される社会」が実現しています。
- ◆ 学校・家庭・地域が連携し、日常生活の様々な機会を通じ、一人ひとりが主体的に参画する交流学習・体験活動が行われ、社会の変化に対応した、差別解消に向けた取り組みや多様性を認め合う人権教育が充実し、人と人のつながりを大切にする人権尊重社会が実現しています。
- ◆ 児童生徒一人ひとりが、安心して登校し、自信と目標をもっていきいきと活動する学校づくりが行われています。
- ◆ 障がいの有無、年齢・国籍等を問わず、誰もが自由に社会参加できる「ユニバーサルなまちづくり」が進み、安全・安心で快適な施設整備が促進されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「多様性（ダイバーシティ）が受容される共生社会」の実現に向け、「とくしま共に生きるフェスタ（仮称）」を開催するとともに、「人権教育啓発推進センター（あいぽーと徳島）」を中心に、様々な人権啓発事業を推進します。
- ◎ インターネット上の悪質な差別書込等に対するモニタリングを県民と共に実施することにより差別書込等の抑止・削減を図ります。
- ◎ 「徳島県人権教育推進方針」に基づき、それぞれのライフステージに対応した、計画的・系統的な人権教育の推進・充実を図るとともに、差別解消と人権確立の視点に立ち、すべての人の共生と自己実現を図る学習機会の提供に取り組みます。
- ◎ 学校・家庭・地域の強固な結びつきと、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家との協働により、児童生徒のよりよい人間関係を構築し、いじめ問題の解決に向けた主体的な取り組みを推進します。
- ◎ 「徳島県ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に関する条例」に基づき、県民、事業者、行政の各主体が緊密に連携・協働し、それぞれの役割に応じて、歩道等の整備や交通安全対策の推進、誰もが利用しやすい公共交通機関の実現など、ユニバーサルデザインによるまちづくりに向けた取り組みを実践します。（一部再掲）

II 「多様性実感！共生とくしま」の実現

4 革新実装・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

「とくしまインダストリー4.0」の実現

- ◆ I o T、ビッグデータ、A I、ロボット等の革新技术により、少子高齢化や人口減少、産業構造の変化、地球規模での環境問題、風水害や地震災害などの様々な地域課題の解決を図る「とくしまインダストリー4.0」が実現し、安全・安心で活力あふれる地域が創造されています。
- ◆ 県内の高速ブロードバンド網が、全域で光ファイバー化され、4 K・8 K・V Rなどの大容量ネットワークを必要とするサービスが充実するとともに、5 Gネットワークが構築され、高精細映像の遠隔医療・警備分野への活用や無人自動運転技術の確立など、より便利で快適な生活が実現しています。
- ◆ マイナンバーカードが、安全安心なデジタル社会の基盤となり、生活に身近な官民のオンラインサービスが提供されるとともに、地域のキャッシュレス化にも利活用され、利便性が向上し、地域経済が活性化しています。
- ◆ 地域資源を活かしたロボットテクノロジーの実用化により、介護・農林水産・防災分野など様々な場面でロボット技術やA I等を効果的に活用し、社会的課題の解決が図られるとともに、ロボット市場への新規参入や様々な産業で最先端技術を活用したスマート化が進展しています。
- ◆ 業界をリードする多くのクリエイティブ関連企業やクリエイターが集積し、絶えず創造と変革を起こしており、最先端のデジタルコンテンツ・デジタルアートの発信地として広く知られる「クリエイティブ産業先進県」となっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ I o T等の革新技术をはじめI C Tを課題解決ツールとして利活用するための指針「I C Tとくしま創造戦略」を着実に推進し、「とくしまインダストリー4.0」の実現を目指します。
- ◎ 官民データ活用による地域課題解決を目指す「とくしま新未来データ活用推進戦略」を着実に推進し、市町村や県民・企業等の連携によりデータ利活用を促進します。また、行政手続きの簡素化やオンライン対応、A I、RPA等の革新技术を活用した「スマート県庁」を実装し、県民の利便性向上を図ります。
- ◎ マイナンバーカードを活用した自治体ポイントの利用を促進し、地域経済の好循環を創出します。
- ◎ A I等の革新技术を活用し産学官連携によるロボット技術開発を進め、本県ものづくり産業の高度化を支援します。また、生産性向上につながる設備等の導入を支援するため、中小企業向け融資制度を活用し、資金調達の円滑化を図ります。
- ◎ A I、ビッグデータ等の新技術の活用に向け、国内外のI C T技術者と県内企業のマッチングを推進し、I C T人材の確保を図ります。
- ◎ 農林水産物の増産及び高付加価値化に向け、農林水産総合技術支援センターを核として、大学や民間事業者との連携により、気候変動にも対応した新たな品種やI o T、ビッグデータ、A Iなどの革新技术を活用した超省力・低コスト化技術の開発・普及を推進します。
- ◎ 地域を支える建設産業の担い手の確保・育成と健全な発展を目指し、i-Construction（建設現場の生産性向上）を推進します。また、I o T、A I等の革新技术を積極的に活用し、効率的・効果的なインフラの維持管理を進めます。
- ◎ 産学官が連携した人材育成、企業誘致、創業等を推進することにより、国内外からクリエイティブ関連企業やクリエイターを集積を図るとともに、県内企業とクリエイターの連携による洗練された商品・サービスの創造や、既存商品等との差別化・高付加価値化（ブランディング）、地域をフィールドとした創作活動などを推進します。

II 「多様性実感！共生とくしま」の実現

5 ブランド進化・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

世界に広がる「徳島ブランド」

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックや2025年大阪・関西万博の開催を契機に、本県産業が「徳島ならではの」強みを活かして世界の成長力を取り込み、国際競争力が強化されています。
- ◆ 照明・ディスプレイ分野でのLEDの普及拡大と、医療・農業等様々な分野での新用途開発が進展するとともに、次世代LEDをはじめとする新たな光源開発・光応用技術の普及が進むなど、県内経済に大きな波及効果をもたらし、本県の基幹産業として地域経済を牽引しています。（再掲）
- ◆ 機械金属、木工、加工食品等の各分野の中小企業において、地域の視点とグローバル感覚を兼ね備えた社員が中心となって、製品のグローバル化展開を推し進めており、IoT、AIを駆使した流通網の発達を追い風に県内の商社や流通業者などを介して、世界各地で本県ブランドの販売量が増大しています。
- ◆ 徳島は「美食の街」というイメージが浸透し、国内外から徳島の食を目当てに多くの人々が訪れる「阿波ふうどツーリズム」が形成されています。
- ◆ 県産農林水産物・食品が海外で高く評価され、アジアから欧米まで年間を通じて輸出されるとともに、「ハラール^{*}マーケット」において、「徳島生まれのハラール商品」が輝きを放っているなど、「海外輸出」が、本県農林水産業を牽引する役割を果たしています。
- ◆ 人と環境に配慮した持続可能性の高い農業が営まれ、「とくしまエシカル農産物^{*}」が消費者へ提供されるとともに、エシカル農産物について消費者の理解を高めることにより、生産から消費に至るまでの、食の安全・安心が確保されています。（再掲）

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 本県の「農林水産物」、「自然や観光資源」、「伝統・文化・産業」など、世界にも通用する多くの「徳島ならではの」強みを活かし、県を挙げて、県内産業の競争力強化、輸出促進による海外展開などの「攻め」の「グローバル対策」を推進します。
- ◎ 産学官連携により、幅広い分野で可能性を持つ次世代LEDの研究や応用製品開発を積極的に推進するとともに、光関連産業の振興に取り組みます。（再掲）
- ◎ 県内企業や農林漁業者がワンストップで海外ビジネスに取り組めるよう、組織体制の強化、国際人材の養成、製品開発・改良などの支援に加え、企業と市場を結ぶ地域商社^{*}・流通・卸業等のグローバル化を促進する施策の強化とともに、海外市場における本県製品の浸透及び新市場への販路開拓の支援策を充実させます。
- ◎ 高品質な食材、レベルの高い料理人、特徴的な郷土食・文化などに支えられる徳島の豊かな食「阿波ふうど」に関わる全ての人達がいきいきと活躍し、国内外から「食べに行きたい」と思われる「美食の街・徳島」を目指します。
- ◎ 輸出国・地域、輸出品目の重点化、新規市場の開拓による輸出量の拡大や「輸出型産地形成^{*}」などの施策を強力に推進するとともに、「GAP」「HACCP」「ハラール」等の認証取得支援や、地理的表示保護制度（GI）の活用により、意欲ある農林漁業者等の海外展開を促進します。
- ◎ GAP認証の取得支援やエコファーマー^{*}の育成、有機農業の推進等に取り組み、人と環境に配慮した持続可能性の高い農業により生産された「とくしまエシカル農産物」の消費者への認知度向上と生産・販路の拡大を図ります。（再掲）

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

5 ブランド進化・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

もうかる農林水産業の進化

- ◆ 経営感覚に優れた意欲ある多様な担い手により、魅力ある農林水産業経営が行われ、農山漁村地域が活気に満ち溢れています。
- ◆ I o T、A I、ロボット等の革新技术を活用したスマート農林水産業の実現により、生産性が飛躍的に向上するとともに、多様化する国内需要や海外ニーズにも対応したグローバル産地が形成されています。
- ◆ 地球温暖化をはじめとする気候変動に対応した品種の導入や、高い生産力と消費者ニーズを捉えた商品づくりや販売戦略などにより、「とくしまブランド」がより一層消費者に浸透するとともに、輸出や6次産業化の推進により、県産農林水産物や加工品の需要が国内外に広がっています。
- ◆ 多様化する消費者等のニーズにも対応した、マーケットイン型の産地づくりが進むとともに、産地の構造改革や生産基盤の整備により、品質の高い徳島のブランド農林水産物を、より効率的、安定的に消費者に供給することができ、農林水産業が地域経済を支える基幹産業として発展しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 産学官連携による新規就業者の養成に加え、女性やアクティブシニアなどのリカレント教育を推進する「とくしま農林水産未来人材スクール（仮称）」を新たに開講し、キャリア形成・スキルアップを支援するとともに、インターンシップ等による大学生等の農林水産現場への受入を進め、就業の促進を図ります。
- ◎ 農林水産物の増産及び高付加価値化に向け、農林水産総合技術支援センターを核として、大学や民間事業者との連携により、気候変動にも対応した新たな品種やI o T、ビッグデータ、A Iなどの革新技术を活用した超省力・低コスト化技術の開発・普及を推進します。（再掲）
- ◎ 大学や民間事業者との連携やオープンラボ機能を有する「六次産業化研究施設」を活用し、6次産業化人材の育成、地場産業との連携による6次産業化ビジネスモデルの創出を支援します。
- ◎ 搾乳ロボット等の省力化機械の導入やI C Tの活用など、生産性向上の取組みを支援するとともに、世界市場からの輸入品に対する守りの強化と「畜産G A P」・「農場H A C C P」の認証取得などの環境整備を促進し、安全安心な県産畜産物の輸出を支援します。
- ◎ 県産材の増産に向け、主伐に適した効率的な林業機械の活用と、林道・作業道等の路網整備を組み合わせることにより、効率的な事業の実施を進めるとともに、林業事業者に対する経営コンサルティング等を通じて林業事業者の体質強化を図ります。
- ◎ 水産業の成長産業化に向け、「環境変動に適応した漁業・養殖業の推進」や「大学や民間企業等と連携した新品種養殖の推進」など、マーケティングを意識した産地づくりに取り組みます。
- ◎ 「とくしまブランド推進機構」による、マーケットイン型の産地づくりや、販売振興、「TurnT able」での情報発信、「PR車両」による攻めのプロモーションなどにより、本県の豊かな食「阿波ふうど」の認知度向上と販売拡大に取り組みます。
- ◎ 本県の特徴ある農産物の生産性や農作業の効率性をより高めるため、区画整理や農業用水のパイプライン化、排水路の整備や既存施設の長寿命化を推進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

5 ブランド進化・とくしまづくり③

＜目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿＞

生産倍増・消費拡大「林業プロジェクト」

- ◆ これまで取り組んできた先進的な林業機械の導入や効率的な路網の整備、高い技術を有する担い手の育成に加え、森林経営管理法により、市町村から「意欲と能力のある林業経営体」に森林経営が委託されることによって、林業の生産規模が拡大し、より効率的な木材生産が展開されています。
- ◆ 主伐による生産を中心に県産材の増産が進むとともに、コンテナ苗^{*}等の活用により、季節を問わない効率的な再生林が行われ、森林資源の循環利用と持続的な林業経営が行われています。
- ◆ 中・大規模建築物にも多くの県産材が使われるようになり、地場産業である木材産業が大きく発展しています。
- ◆ 木造建築物をはじめ、内装材や家具など、身のまわりのあらゆるところで県産材製品の利用が進み、製材端材や林地残材も木質バイオマス資源として無駄なく利用されています。
- ◆ 県産材がその品質の高さから市場での評価が高まり、首都圏やアジアをはじめとする海外へ販路が拡大しています。
- ◆ 木材利用の意義、木材に関する知識などを知ってもらう「木育」を推進することにより、徳島ならではの「木づかい」が未来を担う子供たちに引き継がれています。

＜実現のための主な施策の方向性＞

- ◎ 主伐に適した効率的な林業機械の活用と、林道・作業道等の路網整備を組み合わせることにより、県産材の増産を推進します。また、様々なライフステージに合わせた体験・研修の実施や個人のキャリアに応じた学びの支援により、担い手となる人材の確保を図るとともに、林業事業者に対する経営コンサルティング等を通じて林業事業者の体質強化を図ります。（一部再掲）
- ◎ 主伐後の再生林を進めるため、コンテナ苗などを活用した低コスト造林技術を確立・普及を図るとともに、シカ被害防除技術の普及による計画的で確実な再生林の支援を行います。
- ◎ 教育・福祉施設などの地域社会に必要な建築物への県産材の利用を進め、需要を増やすことによって、中山間地域における雇用の創出と定住化を進めます。
- ◎ 県産材製品の品質向上や商品開発の促進、森林認証材及びJAS材の普及により、首都圏をはじめとする大消費地を中心に、県産材の国内需要の拡大を図ります。
- ◎ 木材需要旺盛なアジア圏を中心に、構造材だけでなく、床板・壁材などの内装材から家具・建具まで「住宅に必要な県産材製品」と大工等の「技術者」をあわせた「まるごと木材輸出システム」による海外輸出を拡大します。
- ◎ 県産材の消費を拡大させるため、関係団体によるネットワークを構築し、県産材についての情報発信や木育活動を一元的に実施します。また、未来を担う子供たちを中心とした幅広い世代に「木育」を推進するため、木育拠点施設を開設します。

II 「多様性実感！共生とくしま」の実現

6 経済好循環・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

力強い「経済成長」の実現

- ◆ 全国屈指の「光ブロードバンド環境」や、「類い希な地域資源」と「斬新な発想」により創出されたビジネスにより、地域は活気にあふれ、国内外からの移住希望者が増えるとともに、コミュニティ内の子供や若者たちが早い段階からビジネス感覚を養い、地域に定住してビジネスを継承しようとしています。（再掲）
- ◆ 時代をリードする企業経営者の育成や経営改善のスキルアップを図ることにより、中小企業・小規模事業者の“強み”や“経営資源”を活かした新たな取組みが行われており、地域経済が持続的に発展しています。
- ◆ たゆまぬ研究開発や新商品開発により形成された「地域ブランド」が、新技術や埋もれた技術の採用、充実した産業間の連携によって、さらに新しい「地域ブランド」を創出し、ものづくり企業の製造品出荷額は増加を続けています。
- ◆ 新たな商品の開発・生産システムの導入、農工商連携など地域の多様な事業者によるアグリビジネスの促進により、6次産業化が飛躍的に進展しています。
- ◆ 「阿波藍」を根幹とした藍産業の基盤が構築され、「阿波しじら織」などの様々な藍染製品の創出や「阿波和紙」、「大谷焼」をはじめとする伝統工芸品への応用によって、新たな「MADE IN TOKUSHIMA」の魅力が創造され、価値や評価が高まり、日本を代表する世界ブランドとして一定の地位を確立しています。
- ◆ 事業主の高齢化に対応するため、早期に社内に後継者を確保する動きや、承継案件のオープン化、さらには県外の企業や移住者への承継PRが活発化しており、優れた技術や経営ノウハウが伝承され、円滑に事業継承が進んでいます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 経営資源を活かした新たな事業活動を促進するため、「柔軟な組織づくり」のノウハウを総合的かつ身近に学べる研修プログラムを提供し、企業の人財育成を支援するとともに、県内中小企業の経営の安定化を図り、積極的な事業展開が可能となるよう資金繰りの円滑化を図ります。（再掲）
- ◎ 独自の技術や経験等を活かして、県内で新たに創業する者等を対象にセミナーの開催や事業計画の策定支援、専門家による経営アドバイスを実施するなど創業を支援します。
- ◎ 県内企業への優先発注に努め、受注機会を確保するとともに、県が率先購入した製品の成果を実証することにより販路開拓や商品力の向上を支援します。
- ◎ 「ものづくり企業」の製品や本県が誇る伝統工芸品の販路開拓を図るため、ビジネスマッチングや販路情報の収集・提供などに加え、他業種とのコラボレーションの促進や国内外における展示商談会への出展支援、ICTを利用した情報発信に取り組みます。
- ◎ 「とくしま経済飛躍ファンド^{*}」を活用し、徳島ならではの地域資源を活用した研究開発、新商品開発、販路開拓など、中小企業の意欲的な取組みを支援し、創造的な事業活動を促進します。
- ◎ 産官学金民で構成された「阿波藍魅力創造発信プロジェクト」により、藍産業の組織化、葉藍の生産振興、新製品の開発、販路の拡大、体験型観光の推進など入口から出口まで一体的に取り組み、100年先を見据えた藍産業の基盤構築を図ります。
- ◎ 「事業承継ネットワーク」と「事業引継ぎ支援センター」が連携し、事業譲渡希望者と事業譲受希望者のマッチングを促進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現 7 いきいき働く・とくしまづくり①

＜目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿＞

新たな「成長モデル」による雇用創出

- ◆ 大都市圏等からの本社機能の移転や、外資系企業の立地により、「第4次産業革命」や、「グリーンイノベーション」、「ライフイノベーション」分野などの成長産業が集積し、新たな雇用が創出され、地域経済が活性化しています。
- ◆ 徳島に世界的な「糖尿病臨床研究開発拠点」が形成され、世界的課題である糖尿病に対する課題解決モデルが構築されるとともに、健康・医療関連企業の集積によりイノベーションが促進され“徳島発”の健康・医療関連産業が次々と創出される環境が構築されています。
- ◆ 地域資源を活かしたロボットテクノロジーの実用化により、介護・農林水産・防災分野など様々な場面でロボット技術やAI等を効果的に活用し、社会的課題の解決が図られるとともに、ロボット市場への新規参入や様々な産業で最先端技術を活用したスマート化が進展しています。（再掲）

＜実現のための主な施策の方向性＞

- ◎ 全国屈指の光ブロードバンド環境や本県独自の「オーダーメイド型立地優遇制度」を活かし、大都市圏からの成長分野関連企業、情報通信関連産業、本社機能移転や外資系企業の誘致を推進し、本県経済の活性化及び雇用の確保を図ります。
- ◎ 産学官が連携した先進的な糖尿病研究開発と成果の事業化を促進するとともに、健康・医療関連産業の創出に向けた産学官連携体制の基盤を構築・拡大します。
- ◎ 「リチウムイオン電池」や高機能素材である「CFRP（炭素繊維強化プラスチック）」や「CNF（セルロースナノファイバー）」など、本県の強みであるものづくり技術や、AI等の革新技術を活用し、産学官連携によるロボット技術開発を進め、本県ものづくり産業の高度化を支援します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現 7 いきいき働く・とくしまづくり②

＜目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿＞

産業人材の育成・確保と「多様な働き方」の実装

- ◆ キャリア形成に向けて、技術革新の進展や企業ニーズに対応した多様な知識や技術を習得できる環境が充実し、誰もが意欲・能力を活かして活躍することができる社会が実現しています。
- ◆ テレワークをはじめ、徳島発の「多様な働き方」が飛躍的に浸透し、仕事と生活の調和がとれた安定的な働き方ができる社会が実現しています。
- ◆ 徳島で創業や起業を実現するための支援や、女性や移住者が創業しやすい環境づくり、創業後のフォローアップなどの取組みにより、新たなビジネスが次々と生まれています。
- ◆ アクティブシニア（元気な高齢者）が増え、それまでに培ってきた「知識」、「経験」、「能力」を活かし、「地域を支える主役」として生涯現役で活躍しています。（再掲）

＜実現のための主な施策の方向性＞

- ◎ 若年者やU I Jターン希望者等に対する相談体制充実など、県内で就職しやすい環境を整備します。
- ◎ 産業界のニーズに応じた高度な人材を育成するため、実践的な知識・技術の習得に資する機会の提供や支援策の充実を図ります。（再掲）
- ◎ 子供の頃から技能の面白さや大切さを身近に感じる機会を設け、興味関心を喚起するとともに、職業訓練施設などにおいて、学卒者、子育て中の女性や外国人材など多様な人材に対するリカレント教育を実施し、職業能力開発を促進します。（再掲）
- ◎ 女性が能力を十分に発揮でき、男女ともに働きやすい職場づくりを推進するため、企業等に対する、仕事と家庭の両立支援に関する情報提供や普及活動を充実させるとともに、働く女性の活躍推進に向け、施策の充実を図ります。
- ◎ 企業における在宅勤務や、モバイルワーク^{*}の導入などの多様な働き方を推進するとともに、誰もがテレワークにより仕事ができるICT環境の実現を図ります。
- ◎ 潜在的労働力である女性のスキルや特技を活かした創業を支援するため、女性目線でのセミナー開催のほか、先輩女性起業家や様々な支援機関との横連携を強化します。
- ◎ アクティブシニアが、社会貢献活動や就労など、多様な形で「地域を支える主役」となり、「生涯現役」で活躍していただくための支援を行います。（再掲）

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

1 誘客万来・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

おもてなしの心豊かな観光立県

- ◆ 徳島の豊かな自然・文化・食などをテーマとしたニューツーリズムが続々と創出され、その魅力がSNSや世界的な旅行雑誌を通じ全世界に発信されることで、世界から「ぜひ訪れたい観光地」としての認知が広がり、多くの観光客で溢れています。
- ◆ 四季折々繰り広げられる「本場の阿波おどり」を体感するため、世界中からの来県者で街が賑わうとともに、世界各地に「阿波おどり連」が結成され、広く親しまれ、阿波おどりの文化が世界に根付いています。
- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックや2025年大阪・関西万博の開催を契機として、アジアをはじめ欧米豪から、本県の伝統文化、郷土食、自然景観や「心温まるお接待文化」に惹きつけられた多くの訪日外国人が繰り返し訪れ、地域の人々との交流で賑わっています。
- ◆ 「とくしま特選ブランド」が世界から認知され、県産品を扱う販路が飛躍的に拡大されるとともに、「県産品」をテーマに地域の特色を活かした様々な「ツーリズム」が盛んに行われています。
- ◆ 国際会議、学術会議、大規模スポーツ大会などのコンベンション（C）が数多く開催されるとともに、企業のミーティング（M）、報奨旅行（I）、文化やスポーツイベント（E）といったMICEの開催地として国内外から選ばれ、宿泊を伴う多くの参加者が訪れることで、観光関連産業が活性化しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 県内DMOを中心に体験型旅行商品の創出支援に取り組み、魅力ある旬の観光コンテンツを「阿波ナビ」やSNSなど多様なチャンネルで発信し、県内の「誘客力強化」を図ります。また、創意と工夫を凝らした観光キャンペーンや観光商談会による県外からの「送客力強化」、及び阿波おどりの通年化などを通じた県内の「観光消費額の増加」に官民一体で取り組みます。
- ◎ 国内外からの招へい等による「阿波おどり連」の派遣により「本場の阿波おどり」で世界を魅了するとともに、「春・夏・秋・冬」と趣向を凝らした阿波おどりイベントの魅力を活かし、年間を通じた魅力ある観光地域づくりに取り組みます。
- ◎ 着実に宿泊者数が伸びている東アジアを重点国・地域とし、東南アジアや欧米豪などもターゲットに据え、現地旅行会社、メディア、航空会社などと連携した効果的な誘客プロモーションを官民一体で展開するとともに、電子決済システムやWi-Fi環境、ニューツーリズムなど体験型旅行商品の充実を図り、観光消費額の拡大を推進します。
- ◎ 訪日外国人旅行者や海外市場もターゲットに、広く県産品を販売できる体制を官民一体で整備するとともに、世界市場から求められる県産品、食べに行きたい郷土料理の開発支援や国内外のアンテナショップやウェブサイト、SNSによる口コミなどを活用し、販路開拓を強化します。
- ◎ 産官学金民で構成された「阿波藍魅力創造発信プロジェクト」により、藍産業の組織化、葉藍の生産振興、新製品の開発、販路の拡大、体験型観光の推進など入口から出口まで一体的に取り組み、100年先を見据えた藍産業の基盤構築を図ります。（再掲）
- ◎ 多くの集客交流が見込まれ経済波及効果の高いコンベンションの誘致に加え、報奨旅行やナイトイベントなど新たな宿泊客の獲得に向け、支援制度の充実、主催者への個別訪問や知恵と工夫を凝らした商談会の開催など、積極的なプロモーションに取り組みます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

1 誘客万来・とくしまづくり②

＜目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿＞

「徳島ならではの」を実感・体感！

- ◆ 「とくしまマラソン」やアニメイベント「マチ★アソビ」が、「徳島ならではの」のイベントとして国内外から注目を集め、多くの参加者が繰り返し徳島を訪れるとともに、にぎわいが周辺地域や県内全域へと広がっています。
- ◆ 県南部圏域では、海・山・川が揃う「豊かな自然」やその自然を活かした「アクティビティ」、魅力ある「食」、地域色豊かな祭りや農村舞台での阿波人形浄瑠璃などの「伝統文化」を求めて、国内外から多くの人々が訪れ、地域が活性化しています。
- ◆ 県西部圏域（にし阿波）では、大歩危・祖谷などの景勝地をはじめ、「世界農業遺産」や「食と農の景勝地」に認定された食や伝統文化、ラフティングやウェイクボードなど、様々なコンテンツが多く外国人を魅了しています。
- ◆ 映画やドラマ、アニメなどの映像を通して徳島県に興味を持った多くの観光客が本県を訪れ、ロケ地をはじめとした県内各地の観光スポットが賑わっています。
- ◆ 県内各地で伝統芸能・文化、スポーツなど様々な要素からなる「ナイトイベント」が開催され、飲食と共に夜の観光を楽しむ多くの観光客で賑わっています。

＜実現のための主な施策の方向性＞

- ◎ 「とくしまマラソン」については、国内外の多くのランナーから支持されるよう受入態勢の充実を図るとともに、沿道の応援者やボランティアによる「おもてなしの心」あふれる「徳島ならではの」の大会運営を目指します。
- ◎ アニメイベントについては、これまで支持されてきた“ファンと出演者が共に楽しむ”特徴を大切にしつつ、時代の最先端コンテンツとも融合を図ることにより、「驚きや感動を体験できる」イベントへと進化を図ります。
- ◎ 県南部圏域の持続可能な観光地域づくりを推進するため、DMO「四国の右下観光局」を核として、「自然」、「アクティビティ」、「食」、「伝統文化」などの地域の魅力を盛り込んだ「体験型観光」をはじめとする「ニューツーリズム」を推進し、地域が一体となって国内外からのさらなる誘客に取り組みます。
- ◎ 県西部圏域（にし阿波）へのインバウンド誘客を進めるため、DMO「そのの郷」を核に、戦略的なプロモーションを展開します。また、祖谷のかずら橋、うだつの町並みなどの観光資源に、世界農業遺産やアクティビティなどを織り交ぜ、長期間滞在できる観光地域づくりを推進します。
- ◎ 徳島県を舞台とした映画やドラマ等の映像作品がたくさん撮影されるよう、情報提供や現地アテンド、エキストラ募集などロケーションサービスの充実を図るとともに、関係団体と連携した誘致活動を積極的に展開します。
- ◎ 集客力のある「ナイトタイムイベント」を企画する民間事業者等への支援を行うことにより、県内外からの観光誘客の促進と観光消費額の拡大を目指します。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

1 誘客万来・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

交流ひろがる快適交通ネットワーク

- ◆ 徳島阿波おどり空港においては、東京便、福岡便、札幌便に次ぐ地域の拠点となる空港への航空路線が開通されるとともに、国際線の充実がなされており、LCC（格安航空会社）も就航するなど、利便性が向上し、観光やビジネスでの利用が拡大しています。
- ◆ 瀬戸内海の東の玄関口である徳島小松島港は、クルーズ客船の寄港地として定着し、毎年多くの国内外クルーズ客船が寄港し、港のにぎわい創出や地域経済の活性化が図られています。
- ◆ 四国横断自動車道（鳴門～阿南間）が開通するとともに、阿南安芸自動車道の整備や徳島自動車道の四車線化の促進により、都市間をはじめ、徳島阿波おどり空港や徳島小松島港など、拠点施設へのアクセスが飛躍的に向上し、経済・産業の発展や観光振興による活力ある地域づくりが進んでいます。
- ◆ 県内の高規格幹線道路、地域高規格道路及びその周辺道路の整備や機能の強化が進み、空港や港湾との連携によって多様な輸送形態が生まれることで、本県の生産性の向上が図られ、物流コスト削減に伴う産業競争力の強化により企業立地が進むとともに、観光客が大幅に増加しています。
- ◆ 放射・環状道路などの整備が進むとともに、鉄道高架事業とまちづくりが一体となって進み、交通の円滑化が図られ、都市部での交通渋滞が大幅に緩和されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 2025年大阪・関西万博等の国際的なイベントを視野に入れ、より多様な地域との相互交流が可能となるよう、国内外の拠点となる空港への新規路線就航に向け、効果的なエアポートセールスを展開し、航空ネットワークを拡充します。
- ◎ 徳島小松島港へのクルーズ客船寄港の継続・拡大を図るため、関係団体等が連携し、国内外での積極的な誘致活動や受入態勢の充実強化に取り組みます。
- ◎ 高速交通ネットワークの充実を図るため、四国横断自動車道、阿南安芸自動車道及びその周辺道路の整備とともに、徳島自動車道の四車線化の促進に取り組みます。（再掲）
- ◎ 「徳島小松島港津田地区活性化計画」に基づき、四国横断自動車道とのアクセスが強化された利点を活かし、大きな潜在能力を持つ「津田地区」のリノベーションに取り組みます。
- ◎ 本県産業の国際化と経済活性化を図るため、国際貿易の拠点である「徳島小松島港コンテナターミナル」の利用促進に向けた効果的な物流支援策に取り組むとともに、「地域産業から生まれたローカル貨物の獲得」、「企業活動を支える物流基盤の充実・強化」を図り、徳島小松島港の活性化に取り組みます。
- ◎ 徳島市中心部へ集まる交通量の分散や、交通容量の拡大を図る放射・環状道路などの道路網の整備を進めるとともに、踏切の除去によって道路交通の円滑化を図る鉄道高架事業を、徳島市のまちづくりと一体となって推進することにより、都市部での交通渋滞の解消や交流促進に努めます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

2 近未来創造・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

夢と希望の新交通ネットワークの構築

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックなどの機会を通じ、本県の魅力は国内外へと広く発信され、2025年大阪・関西万博の開催によって、さらに発信力が増えています。
- ◆ 大阪・関西万博を契機として、本県と関西を結ぶ高速交通ネットワークの充実が図られ、大阪湾ベイエリアはもとより、関西圏から首都圏へ跨がる巨大都市圏「スーパーメガリージョン」にも直結し、インバウンドをはじめ、人・モノ・資金・情報が世界から関西、そして徳島へと大きく対流しています。
- ◆ 鉄道と道路をシームレスに走行し、車両自体が観光資源となるDMVの運行により利用者にとってさらに利便性の高い地域公共交通ネットワークが形成されるとともに、新たな人の流れが生まれ、地域が活性化しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 本県、関西さらには日本全体の発展に繋がる「広域プロジェクト（取組）」について、関西広域連合の一員として、本県が先導役となり、主体的に推進します。
- ◎ 関西地域で連続開催される世界的なイベントを、本県の魅力・活力を世界にアピールする契機とするため、今後、本県が実施する各種施策やプロジェクトをこれらのイベントに連動させるなど、グローバルな視点で戦略的に取り組みます。
- ◎ 2025年大阪・関西万博等の国際イベントを視野に入れ、「関西国際空港」や「徳島阿波おどり空港」をはじめ、大阪湾ベイエリア内の5空港7滑走路の有機的連携によるストック効果の発揮に向け、「四国新幹線」に挑戦するとともに海上交通の導入を研究します。
- ◎ DMVの阿佐東線での安全運行を基に、DMVを活用した観光商品の開発を進め、運行エリアの拡大に取り組みます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現 3 あわ文化創造・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

人と地域がともに輝く「あわ文化」

- ◆ 「あわ文化」創造の努力がたゆみなく続けられ、阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどりなどの伝統文化や音楽をはじめとする芸術文化が息づく魅力ある地域が育まれるとともに、すべての県民が、徳島ならではの文化資源の豊かさを実感し、誇りを持って暮らせる社会が創造されています。
- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の開催を契機に、「あわ文化」の魅力が国内外に認知され、多くの人々が継続的に本県を訪れ、その魅力と感動を県民とともに共有しています。
- ◆ 本県ならではの文化や貴重な文化財の魅力が国内外で認知され、観光をはじめ、活力あるまちづくりに活かされ「文化と経済の好循環」が創出されるとともに、県内各地において、多くの県民の参画により文化財の継承が進んでいます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどり、ベートーヴェン「第九」の「あわ文化4大モチーフ」、邦楽、クラシック、ジャズの「あわ三大音楽」を中心に、芸術文化が息づくまちづくりを推進し、国内外に発信することにより、「徳島ファン」の拡大を図るとともに、東京への一極集中を解消させる先進モデルを創出します。
- ◎ 「あわ文化」の次代を担う人材の育成を図るとともに、県民が文化活動を鑑賞・体感したり発表する機会の一層の充実により県民主役の「あわ文化」を推進します。また、年齢、性別、障がいの有無に関わらず誰もが参加できる「eスポーツ」の振興を図ります。
- ◎ アニメイベントについては、これまで支持されてきた“ファンと出演者が共に楽しむ”特徴を大切にしつつ、時代の最先端コンテンツとも融合を図ることにより、「驚きや感動を体験できる」イベントへと進化を図ります。（再掲）
- ◎ 「伝統文化」と「メディア芸術」の融合など新たな「あわ文化」の価値を創造するとともに、「あわ文化」の力を、観光誘客や商品開発に活用し、経済の活性化と文化芸術の振興を図ります。
- ◎ 地域の資源である文化財の保存と活用による地域振興を図るとともに、埋蔵文化財をはじめとする様々な文化財を活用した体験学習や講演会の開催、中学生「あわっ子文化大使」による魅力発信などにより、あわ文化教育の充実に取り組みます。
- ◎ 本県が誇る「板東俘虜収容所」の歴史を世界へ発信するため、徳島県、鳴門市、ドイツの連携により、「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録に向けた取組みを推進します。
- ◎ 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録への課題となっている構成資産の文化財的価値付けを加速させ、その魅力を国内外へ発信するとともに、産学民官が一体となって四国遍路文化の保存と継承を推進し、文化資源を活かした活力ある地域づくりに取り組みます。
- ◎ 徳島・兵庫の産学民官が一体となって、世界遺産登録に向けて、「鳴門の渦潮」の自然的・文化的価値とその魅力を国内外に発信していくことにより、気運の醸成を図るとともに、地域の活性化につなげていきます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

4 スポーツ王国・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

みんなが誇れるスポーツ王国

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会を契機に創出された「スポーツレガシー」を継承し、スポーツ大会や交流が活発に行われ、県民が国内外のアスリートのプレーを体感することで「夢と感動」があふれています。また、交流人口の拡大につながっており、地域社会が活性化しています。
- ◆ 国際スポーツ大会を契機として、スポーツ参画への機運が高まり、県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」が実現しています。
- ◆ ジュニア層の発掘・育成・強化から、競技スポーツの基盤となる高等学校における指導・強化等へと、一貫した指導強化体制が構築され、継続して競技力を向上させた本県代表選手が、全国大会や国際大会等で活躍しています。また、高等学校を卒業した本県出身の選手が、トップアスリートとして、大学や企業、プロスポーツで活躍しています。
- ◆ ヴォルティスがJ1で活躍するとともに、インディゴソックスが毎年NPB^{*}に選手を輩出する常勝球団として注目されるなど、両チームが徳島の誇りとなり、プロを目指す子どもたちや地元チームを応援する人たちで、スタジアム内外がにぎわいにあふれています。
- ◆ 国際スポーツ大会を契機に創出された「安全安心なフードレガシー」を継承し、県内の産地では、国際水準GAPが実践され、世界の消費者に認められた、安全安心で持続可能性の高い農畜水産物が生産されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 2019年から3年連続で開催される国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西^{**}）における事前キャンプや競技大会の本県開催、さらにその拠点となる競技施設の環境整備により「スポーツレガシー」を創出し、スポーツ参画の機運を高め、本県のスポーツ振興や国際交流促進、地域活性化を推進します。
- ◎ 国際スポーツ大会の開催による、県民のスポーツ参画への機運の高まりを一過性のものとすることなく、県民の誰もがスポーツに親しむことができる機会・環境の創出を図り、生涯スポーツの一層の普及促進に取り組みます。
- ◎ 県内のサイクリングコースを活用したライドイベントの実施や魅力発信等により、サイクルスポーツの普及・促進に取り組むとともに、四国各県との連携による「サイクリングアイランド四国」の推進や大鳴門橋サイクリングロード構想（仮称）等の展開等により「自転車王国とくしま」の充実を図ります。
- ◎ ジュニア期からの一貫指導体制の充実・強化及び指導者の育成に努めるとともに、ふるさと選手会の活用や県内企業、大学等のスポーツ強化事業への支援、さらには元オリンピック選手等とふれあえる機会の創出により、未来のトップアスリートの育成や県内選手の競技力向上を推進します。
- ◎ プロスポーツの楽しさ・素晴らしさを、より多くの県民に知ってもらい、身近に感じてもらうことにより、地域の一体感や誇りの醸成とともに、スポーツの振興やにぎわいの創出を図ります。
- ◎ 持続可能性が高く、世界に求められる産地を目指し、国際水準GAPの実践に向けたステップアップフォーラムを開催するとともに、国際スポーツ大会や万国博覧会等、世界から外国人客が集まるイベントに、県産食材を用いて、世界各国の食文化を取り入れたメニューを提供するなど、エシカル農産物等の認知度向上を図ります。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

5 障がい者カルスポ・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

個性が輝く障がい者スポーツ・芸術文化活動

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、スポーツ・芸術文化などを通じた交流が進み、障がい者が地域の一員として、いきいきと活躍できるなど、障がい者の自立と社会参加が実現し、「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。（再掲）
- ◆ 障がいのある人が、身近な地域で継続的にスポーツに取り組める環境が整い、障がい者スポーツの裾野が拡大するとともに、本県出身選手が国際大会や全国大会で活躍しており、障がい者のスポーツ活動の活性化が一層加速しています。
- ◆ 障がい者の芸術文化活動への参加を一層促進し、障がい者の生活を豊かにするとともに、障がいへの理解と認識が深まり、誰もがいきいきと暮らすことのできる共生社会が実現しています。
- ◆ 特別支援学校における芸術文化・スポーツ活動においては、子どもたちの多様な教育ニーズに合った個々の能力や才能を育む教育が進められるとともに、地域の障がいのある子どもたちの芸術文化・スポーツ活動の核となる学校づくりが行われています。



<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、障がい者のスポーツ・芸術文化活動等への参加を一層促進し、障がい者の生活を豊かにするとともに、障がい者の自立と社会参加の促進を図ります。（再掲）
- ◎ 誰もが運動やスポーツに取り組める環境づくりのため、指導・サポート体制の充実や障がい特性に応じた運動プログラムの作成を行い、障がい者スポーツの裾野の拡大を図ります。また、次世代パラアスリートの発掘・育成のため、子どもたちを対象としたスポーツ教室の開講や専門指導者による実技指導を行い、県内選手の競技力の向上を目指します。
- ◎ 障がい者の芸術文化活動を支える人材の育成や、障がい者が多様な芸術文化活動に参加できる機会を提供することにより、障がい者の芸術文化活動を一貫して支援する体制を整えます。
- ◎ 特別支援学校間の教員の連携や外部専門家による指導、積極的な地域との交流活動等により、子どもたちの芸術文化・スポーツ活動における才能開花や能力向上を目指すとともに、その成果を地域に発信することで、特別支援教育の理解啓発を図ります。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

6 スポーツレガシー・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

新次元スポーツ環境の創造

- ◆ 国際規格に改修された県内スポーツ施設で、スポーツ合宿や大規模大会が開催されるとともに、プロスポーツや各種イベントが通年開催され、県民のみならず、国内外から多くの人々が徳島を訪れ、交流人口が拡大しています。
- ◆ 子育て世代、高齢者、障がい者など、あらゆる人々が新たな複合型スポーツ施設において様々なスポーツやイベントを安全・快適に楽しむとともに、地域のにぎわいが創出され、まち全体が活性化しています。
- ◆ 大勢のアスリートや指導者が、最先端の医科学サポート体制のもと、医科学的知見やデータに基づく効果的なトレーニングや指導に取り組むことで、県内競技スポーツのレベルが飛躍的に向上し、多くの県人選手がプロ選手やオリンピックとして活躍しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 2022年に四国で開催される全国高校総合体育大会の拠点となる鳴門・大塚スポーツパークの陸上競技場トラック等を国際規格に改修し、本県で世界記録の承認が可能となる環境を整え、競技力の向上を図ります。
- ◎ 高等学校において、全国大会の開催、合宿等の誘致や一般競技者との交流ができる競技施設を整備します。
- ◎ 「ドイツカヌー代表チーム」の「東京2020オリンピック事前キャンプ」が決定した川口ダム湖畔において、カヌー・SUPの拠点整備や周辺親水護岸の再整備、さらには湖畔の景観保全を行うとともに、スマート回廊や那賀町の他地域と連携したカヌー・SUPの体験型ツアーをはじめ、地域に根ざしたニューツーリズムを創出します。
- ◎ 少子高齢化や地球温暖化、防災など様々な課題に適応し、子育て世代、高齢者、障がい者など誰もが様々なスポーツやイベントを楽しむことができる複合型スポーツ施設の整備により、地方都市としての賑わいを創造し、まちの活性化につなげる本県ならではの「未来型スポーツ環境創造プロジェクト」を推進します。
- ◎ 医科学的知見に基づく最先端の医科学サポートに関するノウハウを積極的に導入し、アスリート・医科学サポート体制を強化することにより、本県の競技力向上につなげます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現 7 文化レガシー・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

新たな文化レガシーの創出

- ◆ 文化の森総合公園では、VRや4K8Kなどを駆使した体験型の博物館や、誰もが参加できるユニバーサルミュージアムを展開する近代美術館などに多くの人々が訪れています。また、野外劇場「すだちくん森のシアター」では、国内外から注目を集めるイベントが開催されています。
- ◆ 県内各地に眠る埋蔵文化財の発掘・保存・調査研究が進み、地域文化財の活用によって「徳島の魅力」が輝きを増しています。また、埋蔵文化財総合センター「レキシルとくしま」を拠点として、本県が所蔵する「我が国を代表する出土品」や重要文化財の魅力が日本全国に発信されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 文化の森総合公園では、知の拠点となる博物館のグランドオープンや全館をあげてのデジタルアーカイブ構築による文化施設のグレードアップを図ります。
また、恐竜化石含有層発掘調査の本格実施に取り組むほか、自然災害関係古文書等のデジタル化により、温故知新をキーワードとした「開園30周年記念事業」を実施するとともに、「博物館60周年記念展」、「ドイツ・ニーダーザクセン州友好展覧会」「屋外彫刻展」等の魅力あふれるイベントを開催します。
- ◎ 阿南市「加茂宮ノ前遺跡」から出土した、国内最古級の「水銀朱関連遺物」をはじめ、県内各地から出土した重要遺物の再整理・調査研究を進め、本県を代表する埋蔵文化財として未来への継承を図るとともに、「レキシルとくしま」での埋蔵文化財速報展「発掘とくしま」や特別展を開催し、県民への公開はもとより、広く県内外への情報発信を推進します。